B-CLUB SPECIAL

METAL ARMOR DRAGONAR

モデル&デザイン集

- METAL ARMOR MECHANICS
- DRAGONAR OFFICIAL DOCUMENT
- DESIGN COLLECTION
- PLANNING DESIGN & COLOR CHART
- STORY & STAFF LIST
- ORIGINAL PINUP

機甲戦記
ドラグナー
DRAGONAR

ARCHETYPE MAKE/HITOSHI HAYAMI, MASATO INOUE

METAL ARMOR DRAGONAR

MASAMI OHBARI

夕映えの帰投

〜凱旋〜

LIFTER-1
LIFTER-2
LIFTER-3

MODEL MAKING
TOORU KOBAYASHI
PHOTO
YUJI TAKASE

1/144 SCALE KIT BY TOORU KOBAYASHI

METAL ARMOR MECHANICS

解説イラスト／福地 仁

AMA-03B GEWEI

FULL SCRATCHBUILD BY HIROAKI SATOH ①～②
1/144 SCALE KIT BY YOSHIHARU NAGASAKI ③～⑤

Photo①

Photo②

③

④

⑤

頭部図解

ゲバイの頭部はセンサー類と30㎜機関砲の装備によって大型化された。特にセンサー類は旧式のものを流用しているため、他の機体のものよりもスペースをとっている。

前方警戒センサー
イメージセンサー
赤外線センサー
レーザーセンサー
30㎜機関砲
ドラムマガジン

各種センサー

頭部にセンサー類が集中しており、イメージセンサーを中心に赤外線センサーやレーザーセンサーが配置されている。バックパックにはレーダー、腹部には重力場感知レシーバーが装備されている。

頭部正面

頭部背面

腹部

携帯武器

50mmハンドレールガン
SSX5型

4連105mm
ハンドレールキャノン

ゲバイAMA-03B機体解説

ゲバイは戦車的な設計思想で生まれた機体である。運動性よりも防御力を優先し、最大装甲厚はダインの175ミリをはるかに上回り375ミリに達している。さらに、D─1などにも用いられているマルチプルハイブリッド装甲を採用し、その対弾性は極めて高いといえよう。しかし、最大発進重量が197、7tとダインの2倍であり、運動性と燃料消費率は良くない。そのため推力を160、000ポンド（CMP時／250、000ポンド）に増強している。

探知装置はAS7型イメージセンサーを始めとして、GVS5型重力場感知センサーなど、各種のレーダーやセンサーを装備している。頭部が大きいのは大型のセンサーを搭載していることに加え、30ミリ機関砲1門を内装しているためである。

主な携帯武器はハンドレールガンで、ダインやドラウと同じSSX5型が装備されている。SSX5型のマガジンは、銃本体に1個、腰部に2個、シールドの裏に2個、計5個425発を携行している。

FMA-04A
DEINS
1/144 SCALE KIT BY TOORU KOBAYASHI

各種センサー

頭部のカメラ・アイは右が超望遠型、左が標準型のイメージ・センサーを採用している。

肩部には通信用アンテナ兼レーダー・レシーバーと、複合センサーが装備されている。

携帯武器

280㎜ハンドレールキャノン

50㎜ハンドレールガン SSX5型

機種種類

FMA-04C 月面戦略防衛軍所属機

重力場感知システム、レーダーが強化されている。また、主推進機も大型された。宇宙型の最新機で約 150 機生産された機体である。

FMA-04B 地球アフリカ方面軍所属機

ＦＭＡ－04Ａ型を地上用に改修を加えたもので、ディスペンサー装弾数の増化、腕部機関砲を30㎜口径に変更などが行なわれた。迷彩塗装をほどこされ、約300機生産された機体である。

ダインFMA-04A機体解説

ダインはゲバイと並びギガノス軍戦闘型メタル・アーマーの原型といえる機体であり、その設計思想はのちの機体に受け継がれている。例えば、偵察型のＲＭＡ－07ドラウはダインのムーバブル・フレームを流用しているし、頭部索敵システムの設計は、Ｄ兵器においても継承している。だが、ここ数年の技術革新や用兵思想の変革に、ダインはすでに旧型の烙印を押されている。特に姿勢制御システムや装甲の旧式化が目立ち、次期主力機として開発されたＹＦＭＡ－08ゲルフへの転換が、親衛隊を皮切りとして実施されている。だが、量産性、操縦性といった点では極めて高く、また地球連合の戦闘ポッドの3倍の攻撃力を持つ点などから推測して、あと10年は現役を保つと思われる。

主な携帯武器は、ゲバイと同じく50ミリハンドレールガンの他に、２８０ミリハンドレールキャノンなどがある。

RMA-07A DREU

1/144 SCALE KIT BY TOORU KOBAYASHI

METAL ARMOR DRAGONAR

ドラウ・キャバリアー

　ドラウの防御・攻撃力を向上させるために設計された増加装甲。腕部と脚部に装甲を施し、胴体部全体をキャバリアーで保護する。本体側のセンサーを殺す部分もあるが、装甲側に高性能センサーを配置するため死角は生じない。武装面では220㎜レールキャノンを装備する。現在、試作検討中。

ドラウRMA-07A機体解説

ドラウはギガノス軍唯一の偵察型メタル・アーマーでその最大の特徴は、頭部のセンサー・ユニットである。このユニットはドラム式で、回転することにより180度以上の索敵が可能である。しかし、このユニットの搭載により、機体容積の大半を奪われ、メイン・ロケット・エンジンや核融合炉は極めて小型化する必要があった。そのため、脚部の姿勢制御バーニアは他の機種よりも大型となり、さらに燃料を積載するプロペラント・タンクは外装式となった。

　さて、偵察型として最も注目すべき点である探知装置であるが、電子光学カメラであるイメージ・センサーは、ASV2型を採用している。これはFMA—04Aダイン、YFMA—08Aゲルフの ASシリーズの改良型で、YRMA—08Cレビ・ゲルフにも採用された高性能複合センサーである。

　重力場感知システムは、GVL—型で腹部にメイン・レシーバー、脚部に2基サブ・レシーバーが装備されている。この装置は核融合炉から発生する重力波の乱れを探知するもので、レーダーと違いECMの干渉を受けないため、今後の主流になると予想される。だが、重力圏ではほとんど役に立たないという欠点もある。

携帯武器

50㎜ハンドレールガン
SSX5型

8m級アクティブホーミングミサイル

脚部バーニア図解

ドラウのバーニアは他の機種よりも推力が高い。さらにノズル角が可変するラウンド・バーニア式を採用している。

プロペラント・タンク
ノズル
ロケット可動基部
バーニア・ロケット

頭部図解

赤外線センサー
広域イメージ・センサー
メイン・カメラ
ASV2型集束イメージ・センサー

　ドラウの頭部はドラム式センサー・ユニットになっている。ドラムの円周上に各種センサーが配置され回転式である。

YFMA-08A
GELF
1/144 SCALE KIT BY TOORU KOBAYASHI

携帯武器

75mmハンドレールガン

白兵戦用レーザーサーベル

ゲルフYFMA-08A機体解説

YFMA―08Aゲルフは、FMA―04Aダインの後継機として接近、格闘用として開発された第二世代のメタル・アーマーで、量産機としては最も性能の高い機体である。破壊力を増したハンドレールガンの装備、接近戦時に威力を発揮するレーザーサーベル、関節バーニアの搭載や、シモールA型装甲の採用などダインをはるかに上回る装備が施されている。

ゲルフは、その性能の高さゆえに戦闘型ばかりだけではなく、攻撃型や偵察型への転用が検討され、YAMA―08Bヤクトゲルフ、YRMA―08Cレビゲルフなどを生むこととなった。

現在ダインにかわるギガノス軍主力メタルアーマーとして量産体制に入っている。

MAFFU（マッフ）とはメタル・アーマー・フィクスド・フォルグ・ユニットの略称で、宇宙戦用のメタル・アーマーを大気圏内で飛行させるために、メタル・アーマーの背部に接続される飛行装置である。

ゲルフ・マッフ (MAFFU)

YAMA-08B
JAKT GELF
YRMA-08C
REVI GELF
1/144 SCALE KIT BY TOORU KOBAYASHI

頭部センサー

A型、B型の頭部はほとんどかわらずAS5型イメージセンサー搭載し、C型はASV2型複合イメージセンサーを搭載している。

〈C型〉 〈A・B型〉

レビゲルフ腰部センサー

C型の腹部に装備されたGVL2型重力場感知システム(下)。赤外線センサー(上)と、レーザーセンサー(右)も装備されている。

METAL ARMOR DRAGONAR

ヤクトゲルフYAMA-08B機体解説

YAMA—08Bヤマトゲルフ（B型）は、火力強化型で、バックパックに220ミリレールキャノン2門、腕部に150ミリ2連ロケット弾ポッド2基、腰部に200ミリ3連ロケット弾ポッド2基、腹部に25ミリ機関砲1門を追加装備した。さらに装甲を最大厚280ミリに換装し防御力を強化した。

レビゲルフYRMA-08C機体解説

YRMA—08Cレビゲルフ（C型）は、索敵・通信能力の強化型で、頭部センサーをASV2型に換装し、さらに重力場感知システムとレーダー・通信アンテナが増設された。戦闘には不向きであり、装甲を最大圧125ミリにして軽量化を行っている。

PRACTICES

XFMA-09

FALGUEN

1/144 SCALE KIT BY HIROFUMI KISHIYAMA

ファルゲンXFMA-09機体解説

ファルゲンはギガノス軍戦闘型メタル・アーマーにおいて最強といわれる機体である。新型関節バーニアは高運動性をもたらし、センサー、レーダー・システムも偵察型クラスのバリエーションを持つ。また新開発のレーザーソードは、ゲルフのレーザーサーベル以上の威力を持っている。

最大の特徴は胴体部を防護するシモールA型パッシブ装甲である。従来型の装甲は爆裂弾に対して有効だが、徹甲弾には弱い。このシモールA型パッシブ装甲は合成ゴム、シモーレックスを用いた複合装甲で、レールガンの運動エネルギー弾に対して高い防護力を発揮する。これは柔軟性の高いゴム装甲全体で弾の運動エネルギーを吸収するという理論である。また、シモーレックスはレーダー波を吸収するという特性もあり、この装甲はゲルフにも取り入れられている。

マルチ・ディスチャージャー

通常はロケット弾が装備されているが、スモーク、チャフ、フレアなども発射可能。

頭部図解

MAFFU

メタル・アーマー・フィックスド・フォルグユニットの略称。開発コードナンバーはＧＦＥＷ-101。愛称をファルゲン・マッフという。大気圏内飛行用装備であり、最大速度マッハ0.9（9800フィート飛行時)、航続距離2680ノーチカルマイル、ペイロード18.5トンをクリアーすべく開発中である。

携帯武器

XD-01

DRAGONAR-1

1/144 SCALE KIT BY TOORU KOBAYASHI

CABARIER

DRAGONAR

携帯武器

2連105㎜ハンドレールキャノン

75㎜ハンドレールガンLPS9型

対MA用手榴弾

スローインボム

レーザーソード

白兵戦用アザルトナイフ

ドラグナー1型 XD-01機体解説

XD―01ドラグナー1型(略称D―1)は、ラング・プラート博士によって開発された戦闘型メタル・アーマーである。D―1は対MA戦用に設計されており、運動性が極めて優秀な機体だ。だが、その分、燃料積載量と装甲厚が犠牲となり、遠距離砲撃戦には不向きである。それを補う形でキャバリアーが装備される。増加装甲ユニット、キャバリアー0型は、遠距離砲撃戦用の20ミリレールキャノンが2門と、重力場感知システムが装備されている。キャバリアーを装備した場合、本来の運動性は失われるが、接近・白兵戦になったとき除装することができる。

武装は75ミリハンドレールガン、レーザーソード、スローインボム、対MA手榴弾、アザルトナイフである。また、腕部には2連25ミリ機関砲が装備されている。ハイブリットシールドは、防弾用の楯で50ミリクラスのレールガンの直撃に耐える強度を持っている。

装甲図解

①

②

③

①左脚部の二次装甲の内側には、各種ベトロニクスが内装されている。②胸部エア・インテークは耐弾性向上のため、ハニカム構造が採用されている。③背部の装甲には、加速用ブースター・ノズル4基が装備されている。通常は本体のメインノズル2基を用いるが、最大戦闘出力時にはカバーが開き、計6基のノズルが使用される。

XDFU-01 LIFTER-1

1/144 SCALE KIT BY TOORU KOBAYASHI

搭載兵器

5連デュアルミサイルポッド

3連空対空ミサイル

3m級空対空ミサイル

ドロップタンク

リフター背部

リフター1 XDFU-01機体解説

リフター1は飛行ユニットを装着している他のメタル・アーマーとは異なり、主翼の下に副翼を付けたいわゆる複葉機のフォルムを持っている。これは大気圏内の運動性を考慮したためで、ドッグファイトでとりわけ重視される施回性能が良くなる。また艦上機としての運用のため、翼の折りたたみ機構（ウイング・ベント・デバイス）が設けられた。翼内部には燃焼剤と冷却剤のタンクがあり、D―1本体の循環系に接続されている。

XD-01SR

D-1 CUSTOM

1/100 SCALE KIT BY HIROHUMI MINEHAMA

D－1カスタム XD-01SR 機体解説

D－－カスタムとは、度重なる戦闘により機体そのもの疲労がめだち、改修することをよぎなくされたXD－0－ドラグナー－型を、中国の連邦軍メタル・アーマー量産基地で大幅な改修を加えた機体である。

主な改修点は、ムーバブル・フレームを20％、第二次装甲と内部ベトロニクスを－00％、基本武装を50％、以上である。装甲はそれまでのマルチブル・ハイブリッド型を3層構造とし、同強度のまま装甲厚を平均25％減、装甲重量を15％減とした。また、フレームも部分的に削り落し軽量化を行っているため、装備重量の超過にかかわらず最大発進重量は改修前と大差がない。

また、以前は対メタル・アーマー用手榴弾が装備されていた左肩に、重力場感知システムが追加装備された。右肩にはチャフ弾、フレア弾用のディスペンサーが取り付けられ、これによってハンドレールガンのマルチディスチャージャーには、攻撃用の実体弾を装填できるようになった。

キャバリアー CX-3

D－Iカスタム用に開発が検討されていた新型増加装甲システム。頭部にレドームを装備し、D－3の情報支援なしに長距離戦闘が可能となった。また接近戦用の25mm機関砲が装備されている。現在試作検討中。

XD-02

DRAGONAR-2

1/144 SCALE KIT BY TOORU KOBAYASHI

LIFTER-2

携帯武器

両脚のラックにマウント可能の長距離攻撃用増加兵装。対空、対地攻撃用のロケットを各ポッドにそれぞれ8発づつ装備している。

2連ロケット弾ランチャー

2連50mmハンドガトリングガン

88mmハンドレールガンLSP7型

搭載兵器

10連デュアルミサイルポッド

TV誘導爆弾

通常爆弾

ロケット爆弾

ドラグナー2型 XD-02 リフター2 XDFU-02 D-2カスタム XDSR-02 機体解説

ドラグナー2型（略称D―2）は、D―1やD―3と同時に開発された攻撃型メタル・アーマーである。火力においては最も強大であり、280ミリ口径のレールキャノンは戦艦の重装甲をも容易に破壊する威力を持っている。また、装甲は最大450ミリと厚く、重戦車的な設計思想で開発されたといえよう。大気圏内では2連25ミリ機関砲をはずし、専用フライトユニット、リフター2を装備し、飛行性能が与えられている。ただし、D―2の重量のため速度は遅く、ドッグファイトには不向きだ。だが、燃料と冷却剤の積載量が多いため航続距離はD―1の2倍近い。

中国の連邦軍MA量産基地において、D―2は大幅な改造を加えられた。これは刻々と性能が向上する敵メタル・アーマーに対向するため、最新の技術をもってパワーアップが計られたものだ。改造は、超小型核融合炉を始めとして装甲、内部ベドロニクス、武装にまで及んでいる。特に火力は大幅にパワーアップし、主砲のレールキャノンは640ミリになり、2連装自動砲も装備された。

D-2CUSTOM

XD-03

DRAGONAR-3

1/144 SCALE KIT BY TOORU KOBAYASHI

各種レーダー類

D—3レドーム内部構造図。外周部にイメージ・センサー4基と重力感知レシーバー、捜索レーダーが装備されている。

メインノズル

▲下部レーダー・アンテナ。大気圏内飛行においては対地レーダーとして効力を発揮する。

▲胸部センサー集合体。中央上部が広域レーザー・センサー、中央中部は集束レーザー・センサー、中央下部が重力波感知レシーバー、右がイメージ・センサー、左が赤外線センサーである。

携帯武器

3連105mmハンドレールキャノン

50mmハンドルレールガン LPS3型

ドラグナー3型XD-03機体解説

ドラグナー3型（通称D—3）は偵察型メタル・アーマーの概念を打ち破った電子戦専用機である。頭部レドームには各種高性能探知システムが搭載され、全周囲に対しての索敵を行なっている。また、胸部にも前方探知システムが装備されている。D—3の電子戦能力は、索敵、指揮管制、ジャミングという従来の機能の他に、コンピューターへのハック能力がある。これは敵のコンピューターに侵入し、データを書き変えたり、引き出したりする以外にコンピューター制御の電子機器を自由にコントロールすることまでできる。

反面、その戦闘能力は低く、装甲も弱い。だが、それを引いて余りあるだけの電子戦能力がある。その証拠として、同シリーズのD—1、D—2が敵機の性能向上に合わせて、改造が必要だったにもかかわらず、D—3には不要であった。

リフター3は地球連合軍総司令本部ノーラットで装備されたもので、これによって大気圏内においての機動力が持たされた。

LIFTER-3

AMX-06B

GAN-DOLLA

1/144 SCALE KIT BY MASATO INOUE①
1/144 SCALE KIT BY TETU HUJIWARA②

ガン・ドーラAMX-06B機体解説

ガン・ドーラはメタル・アーマー型のドーラとバイク型のガンツァーを組み合わせた新機軸の機動兵器である。地上最高速度時速530kmの機動性を生かし、電撃戦を得意とする。また、パラシュートやバーニアの推力により輸送機からの降下作戦にも対応する。
武装は105ミリ2連装レールキャノンの他、各種ミサイルがドーラ側に、88ミリマルチディスチャージャー2門がガンツァーに装備されている。兵装操作はドーラ側コクピットによって行われ、ガンツァー側は操縦を担当する。
合体状態の弱点は近接戦闘であるが、その場合ドーラがガンツァーから分離し空中から敵に攻撃を加えることができる。これはドーラの脚部の代用として装備されたロケット・エンジンによるもので、空中をホバリングすることが可能である。また、近接戦闘用に新型のレーザー・ソードが装備されている。この分離機能によりガン・ドーラは多面的な作戦行動が可能となる。

METAL ARMOR DRAGONAR

初期試作型

2085年２月にロールアウトした宇宙専用攻撃機。量産性が極めて高い機体であったが、汎用性に欠けるという理由により試作段階で中断させられた。だが、陸戦専用攻撃機ガン・ドーラのベース機として日の目を見た。

携帯武装

7連１RMポッド

デュアルミサイル

レーザーソード

頭部センサー

右目はレーザーセンサー、左目はイメージセンサー、両サイドにはパッシブ・ラジエーション型の暗視装置を４基搭載する。

FFA-02
SCHWALG
AFA-03
DAUZEHN
1/144 SCALE KIT BY B-CLUB STAFF

シュワルグFFA-02機体解説

ＦＦＡ－02シュワルグは、帝国軍量産型ファイティング・フォルグ・アーマーとして最初に正式採用された機体である。その名の通り戦闘機の特性を生かし設計された機体で運動性に重点が置かれ、戦闘機とのドッグファイトを主任務とする。

動力はＪＴＦ－５Ａ型超小型核融合炉であり、そこから発生した高熱を利用し、外部から取り入れた空気を圧縮・膨張させ、推力を生むシステムを採用している。燃料・冷却剤タンクは主翼内にあるが、パイロンに補助燃料タンクを装備し、航続距離の延長が可能である。

武装は50ミリハンドレールガンを主砲とし、対空・対地デュアルミサイルを両翼端に１基ずつ、さらに30ミリ機関砲を１門装備している。

携帯式器

短距離対空、対地デュアルミサイル

30mm機関砲

50mmハンドレールガン　ＳＳ×21型

MBD-1A
DRAGOON
1/144 SCALE KIT BY B-CLUB STAFF

ドラグーンMBD-1A機体解説

ＭＢＤ－１Ａドラグーンは帝国軍から亡命してきたラング・プラート博士の全面的協力によって生みだされた連合軍初の量産型メタル・アーマーである。

機体設計は試作機であるＤシリーズの戦闘、攻撃、偵察という異なる特性を合わせ、同機種の量産ですませることができた。最新技術の成果が投入されているため、部分的にはＤ－１をも上回る性能を有する。だが、Ｄシリーズのような高性能コンピューターが搭載されていないため、パイロットの熟練度が問題とされる。主な武器としては、４６０ミリレールキャノン、55・6ミリハンドレールガン、5連ミサイルポッド、白兵戦用の新型レーザーソードなどがある。

ダウツェンAFA-03機体解説

ＡＦＡ－03ダウツェンは、ギガノス帝国軍のアタッキング・フォルグ・アーマーである。主任務は対地・対艦攻撃で、80ミリハンドレールガンを１門、５連ＩＲＭ（赤外線誘導ミサイル）ポッドを２基、左腕に30ミリ機関砲を１門、爆弾投射器を２基などシュワルグに比較しても重装備である。装甲はシュワルグと同じステライド合成装甲だが、装甲厚が最大１－５ミリと対弾性に優れている。

探知装置は、頭部のＡＳＦ３型イメージセンサー、レーダー、赤外線パッシブセンサー、重力場感知システムなどで、全体的にシュワルグより探知エリアは広い。頭部アンテナは通信用を含め、敵レーダー警戒装置用、ＥＣＭ用になっている。

携帯式器

5連IRMポッド

爆弾投射器

対地攻撃用兵器。通常爆弾の他、ナパーム弾、化学爆弾なども装備可能。片足に7発装備。

30mm機関砲

80mmハンドレールガン　ＳＳ×13型

小林　誠版

ORIGINAL メタル・アーマー

B－CLUB 11号に掲載されたこの小林誠さん製作のオリジナル・メタル・アーマーは、その60％をD－1、D－3のパーツで作られている。小林氏は、キャバリアー0という輸送システムに繋がれるものがあったそうで、D－1の人間型フォルムがまったく解らないようなMAを作ったとのこと。基本的なフォルムはキャバリアーをヒントにし、しいていえば通行の困難な区域での戦闘、偵察を目的とした装甲強化タイプだそうです。

横山　宏版

ORIGINAL メタル・アーマー

小林氏と同じくB－CLUB 11号に掲載されたこの横山宏さん製作のオリジナル・メタル・アーマーも、小林氏の場合と同様にその大半をドラグナーのキットを使用している。以前B－CLUB本誌で『ドラグナー』にでてくるロボットは最新型戦車であるという記事をみて、人型のロボットがなぜ戦車なのか悩んだという横山氏。その疑問がつのってかこのようなMAが作られたわけである。

これもしいていうなれば、地上用の戦闘ポッドというところだろうか……？

近藤和久版
ORIGINAL D-1 重戦タイプ

これは、B-CLUB19号に掲載された近藤和久さんのオリジナル・デザインのD-1だが、近藤氏のデザイン画からすると各種センサーの強化が見られ、そのため従来、白兵戦色の強いD-1と違ってD-2のような後方支援用、又は狙撃用のMAではないかと推測される。この事を補足する要因としては、まず手部が通常のMAと違い戦闘ポッド用のマニュピレーターとなっている事、長射程を生みだす大型のレールガンの装備、装甲の重量化などがあげられる。したがってMAというよりは、メタル・スナイパーというところだろう。

B-CLUB19号に掲載された宮下将彦さん製作のドラウ（!?）改造の作例です。「ドラウをエイリアンみたいな怪物に……」という編集部の要望によって製作されたものですが、胴体をドラウのキットからそのまま使用しているほかは、ほとんどスクラッチか他のキットのパーツを流用したものになっています。宮下さんの想定では、このキットは頭部メカで、下にも胴体がある……というものだそうです。

制作／宮下将彦
エイリアン風メタル・アーマー

イラスト／大張正己

1/144 SCALE

DRAGONAR-1

OPTION HEAD
DEFORMATION
MASAMI OHBARI

1/144キットモデルのD-1をかんたんにO・Pタイプにしてしまう方法

「機甲戦記ドラグナー」の放映前から早くもドラグナー1のフルスクラッチを2点（Bクラブ本誌14号に1/100と16号に1/144）も手がけた井上正人氏が、待ちに待った第一話の放映を見たとたん〝わ〟と驚いて、ひっくり返ったというオープニングタイトル。

このO・Pに登場するドラグナーは作画の大張正己氏が大河原邦男氏のデザインを思いっきりディフォルメしたもので、井上氏の製作したモデルや発売されたキットモデルとはガラリと違っていたわけです。大張氏は「飛影」や「ダンクーガ」等のメカ作監で知られ「マシンロボ・クロノスの逆襲」にもかかわっています（最近ではOVA「ダンガイオー」にメカ作監として参加)。確かに鳥のくちばしのようなひさし部分の表現は、ダンクーガやマシンロボを想い起こさせてしまいます。大張氏と親交のあるBクラブのA記者の話では、氏は若冠21歳であるとか。この大張ドラグナー、大河原氏のデザインとあまりにも印象が違うため、バンダイさんから自粛するようにという要請が出てしまったとか……（15話分から一部が修正された）アニメファンのみならず、プラモファンにも受けていただけに、ちょっぴり残念な気がします。

さて、ここで大張ドラグナーをフルスクラッチで行きたいところなのですが1/144キットのすばらしい出来も気に入っていますので、今回はパーツ交換によって1/144キットを、大張ドラグナー風にしてみることにしました。

1/144キットはポリキャップ使用で各関節ごとにバラバラにできますので、パーツの取り換えが簡単です。今回製作したパーツは頭部、肩、手の3部分。

大張氏御自身によって全身（前後）と頭部デザインを描いていただくことができたのですが、ここにも2D世界と3D世界の矛盾は存在するため、アニメやアニメ誌に描かれたイラストも含め、複合的に判断させてもらうことにしました。なお、耳はキットの流用です。首と頭を別パーツにしてあるので首の角度は思いのまま、ただし固定にしなきゃなりませんが……。

肩は本来、取り外しのきかないパーツ（組立てたらとれない）ですが、ちょっとした工夫で取り外し可能に出来ます。腕の付け根のポリキャップで固定してしまえば、腕を外さない限り肩も外れませんし、動きに支障はありません。

手は、今回一番楽しい部分で、この表情をちょっと変えるだけでポーズの幅がぐんと広がります。左右あわせて4種作ってみましたが、これも大張氏特有のアレンジにしました。

O・Pドラグナー1は、このほかに長く伸びた腰アーマーや複雑化したレッグアーマーなど色んな特徴がありますが、ここら辺りまでいじるとパーツ交換だけでなく、下腿部をもう1センチ程伸ばさなくてはならなくなるので、今回はこの辺りは目をつむることにしました。腕に自信のある人は、やってみると面白いかも知れませんね。

さて、この交換パーツはBクラブよりN・C・Mとして発売されています。プラモを切ったり貼ったりせず、パーツの取り換えだけで手軽に楽しむというのも、新しいプラモデルの楽しみ方だと思うのですが。

MODEL MAKING：HITOSHI HAYAMI

オプションパーツ製作・速水仁司
キットモデル制作・小林とおる

●これだけのパーツで1/144ドラグナー1キットを大張正己氏が描くO・Pタイプに改造できるのです。O・Pタイプ改造パーツセットは、N・C・M（プラキャスト製）で現在発売中です。価格は500円。全国Bクラブ・グッズ取扱店で！

O・Pアニメーター 大張正己さんに聞く

MASAMI・OHBARI

おおばりまさみ　昭和[illegible]年[illegible]月[illegible]日生。アニメーター。好きなアニメ作品は「ザンボット3」、「ダイターン3」、「仮面ライダーV3」、「[illegible]」等々。エモーションの新作[illegible]「[illegible]」に意欲的に取り組んでいる最中である。

はじめまして、大張正己です。Bクラブに絵を描くのはこれで3度目ということになります。僕自身、玩具やロボットが好きなので、ずっとBクラブを愛読しているのですが、自分の描いた絵が載っているのを見るのは何とも変な気分です。

簡単に僕の経歴をお話しします。元もとは葦プロで原画をやっていて「超獣機神ダンクーガ」（TV版）では一部メカデザインもやらせてもらいました。「ダンクーガ・英雄たちの鎮魂曲(レクイエム)」（ビデオ版）で、断空剣のアイデアを出したのは実は僕なんですヨ。他には、久々にロボットアニメの面白さを見せてくれた「戦え！イクサー1」のACT＝Ⅱ、Ⅲでメカ作監をやらせてもらったり、「飛影」、「マシンロボ」等も担当しました。

今回のドラグナー1について説明しておきますと「ドラグナー1」のO・P(オープニング)原画を担当した時に描いたものなのです。この作品のキャラクターデザイナーである大貫健一さんと同じ作画スタジオ（南町奉行所）に参加している関係で原画をやる事になったのですが、その時考えたことは、子供の頃に熱中したロボットアニメ（懐ロボ）のように〝カッコよく描いてみたい！〟ということでした。プラモの雑誌では暴言かも知れませんが、僕の場合子供のころ戦闘機や戦車に熱中したわけではありませんから（戦争を知らない…じゃなくて戦争に興味がない子供たちだったわけ）〝カッコ良さ〟というのは兵器としてのリアリティじゃなくて、〝見栄のきらせ方〟なんです。そうするのにいちばん描きやすい形にディフォルメしてしまったのがO・Pドラグナーなのです。大河原邦男さんのデザインを勝手にアレンジしてしまい、テレビを観ている人に混乱をまねいているかも知れませんね、ごめんなさい……。やはりプラモとして立体になった形は大河原さんのデザインがベストですよ。（いくら3面描いたって、これじゃあ立体にできないでしょ）でも、速水さんの作例を見ると、頭と肩をとっかえてしまうだけで見事にO・P版になってしまいますね。これは元のデザインがいいからですよ。

ここに掲載したのは大張正己さんのラフ。クリーンナップしなかった、目のアップ、側面等の参考資料にしてください。

●目のUP

●側面

●頭部

THE DORAGONAR OFFICIAL DOCUMENT.

ドラグナー・オフィシャル・ドキュメント

●「ドラグナー」のメカニズム、データ、時代背景、両軍の組織図などサンライズの公式データをもとに徹底解説！

解説　千葉　暁（伸童舎）
図解イラスト　福地　仁
資料提供、設定考証　井上幸一（サンライズ）

メタル・アーマー機体解説①

1ムーバブル・フレーム

メタル・アーマー（以下MA）の機体構造は、基本的に最小限の駆動系をワンパッケージ化したムーバブルフレームと、付加機能を内蔵した装甲に大別できる。

ムーバブルフレームの駆動系は人型としての関節駆動系と、バーニア・ロケットモーター やスラスター・ロケットモーターの燃焼駆動系があり、それぞれ附属する制御系と循環系を有する。

関節駆動は油圧アクチェエータ、サーボモーターが中心で、精密作業を要求されるマニピュレータ部には形状記憶合金を用いた駆動システムが組み込まれている。動力は超小型核融合に付随するジェネレータからの電力を使用する。

燃焼駆動は核融合炉から生じる熱エネルギーを用い、通常戦闘機の10倍以上の推力を発生させている。大気圏内飛行の場合、外部から空気を取り入れ圧縮燃焼させる熱核ジェット推進だが、宇宙では推進剤を必要とする。初期型はバーニアを装甲部に配置していたが、ゲルフ以降はフレームの関節部に内蔵させるようになり、姿勢制御の際、発生する機体への負荷が軽減された。

2アーマー

MAが在来兵器と一線を画す点は、装甲と付加機能を有するベトロニクスを一体化したことにある。ムーバブルフレームはMAの最小限の機能しか持たず、探知システム、補助推進器、火器などを内蔵した外装を装着することで機動兵器として機能するように設計されている。このシステムの利点は、損傷した部品を外装ごとに交換することで、再出撃に要する時間を短縮できる点や、フレーム部の修理も外装を除ことで容易になる点、さらに外装部の交換によって、同一機体の作戦内容に応じた装備を施すことが可能となる。それを具現化したのが、Dシリーズとゲルフシリーズで、同一フレームで戦闘型、攻撃型、偵察型への換装ができる。システムとして複雑化し、量産性の低下が生じるが、機体間の部品共用率が高くなり、前線においての稼動率は高く、充分デメリットを相殺する。

装甲はフレーム部の第1次装甲と、付加機能を持つ第2次装甲に大別される。第2次装甲は破弾率の多い箇所に施されるため、第1次装甲が露出している。装甲材質はMAの改良のたびに進化しているが、帝国軍は生産性の良いステライド合成装甲を多く用いる。次期主力機にはスモールA型パッシブ装甲の採用が決定している。シモールA型はシモーレックスという合成樹脂を材料とした軟質装甲であり、レールガンの徹甲弾の運動エネルギーを装甲全体で吸収する。それに対し、Dシリーズに用いられているマルチブル・ハイブリッドアーマーは、ステライド系の装甲板とシモーレックス系の装甲板を組み合わした複合装甲板で両者の利点を合わせ持つ。また、装甲板にはゼライトという電波吸収塗料によってコーティングが施されている。

3センサー・システム

MAの探知装置は、大別するともっともポピュラーなレーダーと、各種センサー、重力場感知システムとなる。レーダーはこの時代対レーダー塗料ゼライトの発明と、ECM、ECMといった電子戦技術によって効力を失い、かえって信用すると偽情報をつかまされることになる。したがって、レーダーの比重は年々低下し、探知妨害されにくいセンサーの比重が大きくなった。MAの眼に相当するセンサーは、電子光学系のイメージセンサーである。これはコンピュータの画像補正によって超望遠の画像を得るもので、大気という遮蔽物のない宇宙では絶大の効果を発揮する。また、広域索的に効果敵な赤外線センサー、相対距離の測定、照準に用いられるレーザーセンサーなどもMAには装備されている。大気圏内では集音センサー、水中用MAにはソナーも有効である。最新技術の成果としては、重力場感知システムがある。これは核融合炉から発する重力波の乱れを探知するもので、現時点では妨害手段がない。

4ポッド・システム

帝国軍、連合軍ともにこのシステムを採用している。ポッドは脱出用のもので、パイロットもしくはコンピュータの判断で、パイロットをコクピットからポッド内に移し、機体外にポッドを離脱させる。宇宙ではレスキュー・バルーンを出し、居住空間を広げ、友軍の救助を持つ。大気圏内用はバルーンのスペースにパラシュートが装備されている。

MOVABLE-FLAME(Type/D-1)

●メタル・アーマーは、すべてムーバブル・フレームと呼称される駆動ユニットを使用している。図はDシリーズの共通フレームである。他の機種とは弱干仕様が異なるが、地上用の特殊型を除き、全機種システムは共通である。

IMAGE SENSOR(Type/DEINS)

超望遠型（固定ズーム）
標準型（左右視界160°）
集音センサー

VERNIER ROCKET (Type/D-1)

●関節部に内蔵されている。このタイプは使用時のみノズル部が露出する。

FLIGHT UNIT PERSPECTIVE DRAWING (Type/LIFTER-1)

●フライト・ユニットは、メタル・アーマーの大気圏内航空戦を可能とする装備である。動力メタル・アーマー内部の核融合炉から発生する高熱を利用し、推進力とする熱核ジェット方式である。翼内はインテグラルタンクであり、燃焼剤と冷却剤が積載されている。熱核ジェットは空気が燃焼剤そのものだが、始動時とアフターバーナー時に燃焼剤を必要とする。冷却剤は核融合炉に使用され、航続距離はこの冷却剤の積載量によって設定されている。

5操縦システム

コクピットは大半の機体が胸部に位置している。被弾率は高いが、胸部装甲はもっとも厚くなっている。風防によって直接敵を目視できる戦闘機と異なり、MAイメージセンサーからのコンピュータ処理映像によって目視する。また、照準用レティクルもメインモニターに投影される。コクピットのパネルには、各種センサーからの情報が表示され、パイロットは多くの表示の中から必要な情報を読み取らなくてはならない。ただし、コンピュータの進歩によりボイス・コマンド(音声入力)やコンピュータ・サポートが導入され、パイロットのワークエリアは以前よりはるかに軽減されている。

　機体操縦の大半は、両サイドのコントロール・スティックと、フットペダルによって行われる。基本的には戦闘機と操作は同じで、コンピュータが適正な駆動制御を行う。コントロール・スティックは、レールガンなど火器のトリガーがある。また、兵装選択用シフトトリガーがあり、他の火器発射操作に切り換えることができる。他に使用度が多いのは、パワーシフトレバーとスロットルである。スロットルは右フットペダルも同様の機能であるが、CMP(コンバット・マキシマム・パワー＝最大戦闘出力)に移行させるには、左パネルのスロットル操作が必要だ。また、エジン・スターターを兼ねている。パワーシフトレバーは、推力と関節駆動のパワー配分を選択するもので6モードが設定されている。①マニピュレータ・モード／腕部マニピュ

COCKPIT(Type/D-1)

●与圧室からの乗り込みは専用チューブによって行われる。

RESCUE BALLOON

●レスキュー・バルーン内の酸素量は約24時間である。

RESCUE POP(Type/D-Series)

●レスキュー・ポッドの左側面には、簡易居住ブロックになるバルーンが装備されている。これは狭いポッド内でパイロットが閉所恐怖症になるのを防ぐためのものだ。

メタル・アーマー機体解説②

レータ操作時。また、隠密行動時（スラスターの出力を低く抑える）や着艦時に使用する。
②戦闘Aモード／白兵戦時。
③戦闘Bモード／標準戦闘時。
④戦闘Cモード／戦闘空域までの巡航時。
⑤キャバリアー・モード／キャバリアー装着時。操縦系はすべてD—1と同一となる。（このモードはD—1のみ設定されている）
⑥整備モード／艦内駐機時。セイフティ・シフト。

選択はリセットボタンを押しながら、ニュートラル位置に移行させ、別のシフトポジションに持っていく。ニュートラル位置に止めておくとコンピュータの自動操作となる。Dシリーズの場合、コンピュータが高性能であるため、コントロールスティックとフットペダルの操作だけマスターできれば充分に操縦可能だ。

6兵装システム

MAの主兵装は、携帯式のレールガンである。これは別名電磁砲と呼ばれ、蓄積した電気エネルギーを瞬間的に放電したとき生じる電磁力によって砲弾を加速する装置である。従来の火薬による発射方式が秒速約2km以上に砲弾を加速できないことに対し、レールガンは秒速20kmにできる。砲弾は徹甲弾、爆裂弾、プラズマ化弾がある。ただし、プラズマ化弾は200ミリ以上の口径弾に限る。レールガンの駆動は本体からの電力によって行われるが、銃内部のバッテリーにより1連射分の発射が可能。また初期型を除いては、レールガンにマルチディスチャージャーが装備されている。これは加速力は低いが、レールガンと同じ原理で砲弾を発射する。特にプラズマ化弾が多い。また、チャフ、フレア、スモークなども装填される。マルチディスチャージャーはレールガン装備の他にゲルフ、ファルゲンのようにバックパックに装備される場合もある。CMP時においては電力量も増大するため、レールガンの威力も大きくなる。

白兵戦においてはレーザーサーベルがある。MAは新技術であるため、装備されている。

CONSOLE(Type/D-1,D-2)

①通信用、情報ディスプレイ（通常、時計表示）
②メインモニター
③左後方モニター
④右後方モニター
⑤左側面モニター
⑥右側面モニター
⑦マルチディスプレイA
⑧マルチディスプレイB
⑨速度・加速度計
⑩水平計・機体姿勢計
⑪駆動力・推力計
⑫兵装関係チェックパネル
⑬機体チェックパネル
⑭左スピーカー（通信用）
⑮右スピーカー（同）
⑯左ハイレンジスピーカー（外部音用）
⑰右ハイレンジスピーカー（同）
⑱通信用カメラ
⑲左スティック（シフト、トリガー）
⑳右スティック（同）
㉑左フットペダル（ブレーキ、逆噴射用）
㉒右フットペダル（スロットル）
㉓スロットル
㉔パワーシフトレバー
㉕IFF（敵味方識別装置）制御パネル
㉖通信制御パネル
㉗EPU（緊急動力装置）制御パネル
㉘トリムパネル
㉙シートアジャスター
㉚レーダ管制パネル
㉛生命意地装置制御パネル
㉜自動操縦装置コントローラー
㉝エアコンノズル
㉞耐衝パッド
㉟緊急脱出レバー
㊱ポケット
㊲ディスプレイコントローラー

Dシリーズ・レティクル表示

パワーシフトレバー
ニュートラル
スティック
① ② ③ ④ ⑤ ⑥

推力・関接駆動力のパワー配分を行う。①マニュピュレータ・モード②戦闘Aモード③戦闘Bモード④戦闘Cモード⑤キャバリアー・モード⑥整備モード

METAL ARMOR DRAGONAR

限られているが、今後標準装備化されるのは間違いないだろう。また、Dシリーズにはアザルトナイフが装備されている。

ミサイルは特にMA用に開発されたものはなく、多くは戦闘機やヘリ用の装備を流用している。誘導方法はIR（赤外線）タイプが主流だが、ジャミング効果が低い複合センサー内蔵タイプもある。

また、レールガンの補助として火薬式の機関砲が装備される。多くは腕部に内装するが、ゲバイのように頭部に装備する例もある。機関砲によってMAの装甲を貫通することは困難だが、対人、対車両には有効である。

7戦闘型、攻撃型、偵察型の違い

MAはその用途から3タイプに類別できる。

戦闘型（FIGHTING TYPE）は対MA、戦闘ポッド用であり、運動性に優れている。その分装甲が薄い。また、多くは白兵戦用の兵器を装備する。

攻撃型（ATTACKING TYPE）は対MA、艦艇用であり、火力と防御力に比重が置かれている。その分重量が増し、運動性が犠牲となっている。

偵察型（RECONNAISSANCE TYPE）は文字通りの目的の機体であり、探知装置の高性能化、ステルス性の強化が行われている。戦闘が主目的ではないため、装甲も薄く、火力も弱い。D—3の場合は、偵察型というよりも電子戦用機というアクティブな役割を持つ。

3タイプの分類は識別コードによって判別することができる。（FMA＝戦闘型、AMA＝攻撃型、RMA＝偵察型、帝国軍の機体のみ）また、そのあとの数字は開発順を示し、末尾のアルファベット記号はシリーズ内のタイプを示す。（例、FMA—04A——4番目に開発された戦闘型メタル・アーマーのAタイプ）連合軍側は識別コードの表記が異なる。（MBD—01A——MAIN BATTLE DRGOON《主力ドラグナー》の最初に量産されたAタイプ）また、帝国軍機の場合、さらに頭にアルファベットが付くこともある。（X＝試作実験機、Y＝先行量産機、W＝特殊任務用機《水陸両用機という意味もある》）

レールガン用弾体

◀爆裂弾／内部に炸薬が装塡されており、爆発という化学エネルギーにより敵の装甲を破壊する。

◀徹甲弾／弾丸の運動エネルギーにより装甲を貫通し、内部を破壊する。

◀プラズマ化弾／弾丸自体がプラズマ化し、破壊力を飛躍的に増大させている。

ディスチャージャー用弾体

◀グレネード／対艦・対MA用榴弾。

◀チャフ／敵レーダー波を攪乱するチャフ片を内包する。

◀フレア／燃焼し、敵赤外線センサーを欺瞞。赤外線式誘導ミサイルに対して有効。

●他に爆裂弾、徹甲弾、プラズマ化弾　スモークなども装塡可能。

HAND-RAILGUN(Type/SSX-55)

●SSX55型　50㎜ハンドレールガン
発射速度　1800発／分
携行弾数　425発
弾種　徹甲弾及び爆裂弾

メタル・アーマー開発史

2047.08.01	月、入植開始
2052.03.09	ムーン科学アカデミー、メタル・ワーカーを開発
2056.02.13	アメリカ軍、月に基地を建設
2061.04.30	ソ連軍、月に基地を建設
2062.10.28	EC連合軍、月に基地を建設
2064.03.14	中国軍、月に基地を建設
2069.10.01	マスドライバー第1号機完成
2070.11.30	ギルトール計画開始
2075.10.07	メタル・アーマー試作開始（XAMA-01、XFAMA-02）
2076.06.19	ムーン科学アカデミー、超小型核融合炉の開発に成功
2079.04.02	●XAMA－01、XFMA－02をもとに実用機開発を着手
2080.05.31	ムーン科学アカデミー、核分裂を抑制するニュークリアー・フィション・コントロール・ウェーブを開発する
2082.03.15	●YAMA－03、ロールアウト
2083.03.26	●YFMA－04、ロールアウト
2083.12.09	●AMA－03ゲバイ、FMA－04ダインの量産開始
2084.08.01	『ギガノス事変』勃発。月、独立。メタル・アーマー投入
2084.10.10	●XRMA－05、ロールアウト
2084.12.12	地球連合軍結成
2085.02.22	●XAMA－06、ロールアウト
2085.09.18	●YAMA－07、ロールアウト
2085.11.06	●AMA－06ドーラ、ロールアウト
2086.05.30	月臨時政府、ギガノス帝国樹立を宣言。ギルトール臨時政府代表を総帥として承認する
2086.06.21	『第一次宇宙大戦』勃発。地球連合艦隊、月衛星軌道上にて敗退
2086.07.08	ギガノス帝国軍地球侵攻開始。ヨーロッパに機動部隊降下
2086.08.14	●ラング・プラート、D兵器の開発を着手
2086.09.28	●YFMA－08Aゲルフ、実戦参加
2086.10.12	●AMA－06Bガン・ドーラ、実戦参加
2086.11.01	●XFMA－09ファルゲン、実戦参加
2086.12.13	●AMA－06Cゲル・ドーラ、実戦参加
2087.01.24	●D兵器試作機完成
2087.02.07	中立コロニー、アルカード、マスドライバーの直撃により大破（D兵器、地球連合軍に渡る）
2087.06.13	●FFA－02シュワルグ、AFA－03ダウツェン実戦参加
2087.08.08	●MBD－01Aドラクーン配備

年表

1ギルトール計画

ギルトール計画とは、のちのギガノス帝国の総統、ギルトールの提唱による人型機動兵器、**メタルアーマー**開発計画である。(そのため、現在でもメタル・アーマーを**ギルトール**と呼称する風潮が残っている)この機動兵器はいうまでもなく月を地球連合の管理下から脱却し、国家として独立させるための『力』として開発された。開発設計にあたったのは、ラング・プラートである。彼は、月面作業用ビーグル(**メタル・ワーカー**)を原型とし、メタル・アーマーの基礎技術の大半を築き上げた人物である。

XAMA—01とXFMA—02は、初期の実験機である。正式採用された機体は第一次ギガノス事変に用いられたYAMA—03とYFMA—04からである。正式採用機である2機は、のちの**AMA—03ゲバイ**と**FMA—04ダイン**の先行量産機にあたる。YFMA—04はプラートの設計によるものだが、YAMA—03に関しては別のチームの手によって平行して開発された機体である。仮にプラートが率いるチームをAチーム、もう一班をBチームと呼ぶが、Aチームは戦闘型(FMA)の、Bチームは攻撃型（AMA）の開発にあたることになる。また、のちには偵察型（RMA）の開発を担当するCチームがAチームから分派して生れる。

YFMA—04は指揮官機として選ばれ、電子戦兵装を加えられたFMA—04ダインとして量産された。この機体は徐々に改良が進み、現在ではFMA—04Dまで就役している。これまでの生産数は約700機である。

YAMA—03は初の正式採用メタル・アーマーの名を得るために、在来の機器を用いて開発期間を短縮したため、特にセンサー類が大型化し、結果的に指揮官機選考の最重要点である電子戦兵装を入れるスペースがなく、一般量産機となった。AMA—03ゲバイは、正式採用以来、これまでに2500機が製造され、宇宙軍を始め地上軍にも配備されたが、すでに設計的に旧式化しており、2087年には生産中止になっている。

2ギガノス事変

第一次ギガノス事変は、AMA—03とFMA—04の地球連合軍に対する示威行動によって、ほぼ無血のうちにクーデターは成功し、月はギガノス帝国として独立した。だが、総統に就任したギルトールは、新たに地球支配を目標にかかげ、メタル・アーマーの開発の続行を命じた。それに対してプラートは戦争の拡大に反対したもののその意見は無視され、さらに危険思想人物として監視が付けられた。それでもしばらく彼はメタル・アーマーの研究に没頭していた。そして、FMA—04Bをロールアウトさせた時点で、**XFMA—09ファルゲン**の設計に着手した。

XAMA—06は、宇宙専用に開発された機体で、地上歩行用の脚部を廃し、大型ロケットノズルを装備した。確かにそれまでの機体とは比較にならないほどの高推力を得たが、汎用性が問題となり、試作機の段階で一時棚上げされた。

RMA—07ドラウは、FMA—04のフレームを元に開発されたXFMA—05を電子戦仕様機として再設計した機体である。しかし、ドラム式センサー・ユニットの採用により、ボディの設計は大幅に変更された。この機体の再設計は、Aチームから分派した新チームが担当した。このチームはその後YFMA—08の開発に取り組むことになる。

YFMA—08ゲルフは、FMA—04を越える戦闘型メタル・アーマーとして開発に着手された機体である。従来の機体は、バーニアを外装に装備されていたが、この機体において、初めてフレームの関節部に内蔵することに成功した。これによって運動性は増し、外装部の燃料積載量も増大した。

XFMA—09ファルゲンは、戦闘型メタル・アーマーの究極点ともいうべき機体であり、火力、運動性、防御力など総合的に能力が高められている。もともと実験機として開発されたため、量産はされていない。

3D計画

結果的にプラートはXFMA—09を完成させることができなかった。思想的に問題があると判断され、開発局への出入を禁止されたのである。しかし、彼はメタル・アーマーに関する研究データを事前に持ち出しており、潜かに地球連合軍に渡すべく新型機の開発に着手していた。プラート以外にもギルトールの政策に反対する者も多く、協力者に不自由することはなかった。

D兵器と名付けられたこの新型メタル・アーマーは、互換性を考えた戦闘（格闘戦）攻撃（砲撃戦）、偵察（電子戦）の異なる機能を持つシリーズであった。これは3種類の機体のフレームを供与させ、異なる第2次装甲と各種ベトロニクスによって、各仕様に対応するというものである。さらに、**D—1**（戦闘型）はキャバリアーという増加戦闘ユニットを装着し、長距離・長時間戦闘能力を強化するシステムを採用した。これは、XFMA—09の段階で戦闘型メタル・アーマーが設計上、高性能化の限界にきていることを感じたためである。火力、運動性、防御力のバランスを考えた場合、どの面を強化しても他を犠牲にしてしまうのである。キャバリアー・システムは、その限界を補うため機体自体の機能を限定し、増加ユニットによって機能を拡大するものだ。共用フレームや増加装甲システムは、高い技術精度を要求し、量産機には不向きに思われるが、共用部品が多いことで、

シリーズそのものの稼動率は良いという結論が出ている。

また、D兵器は、地球重力下で機動性、運動性が低下するメタル・アーマーの弱点を補うための専用**フライトユニット**の装備を前提とした設計が施されていた。そのひとつがUJVR（ユニバーサル・ジョイント・バーニア・ロケット）である。これはプラートがXFMA－09において実験的に取り入れたもので、出力、駆動速度はD兵器においてより完成した機構になった。

だが、フライト・ユニットは時間的な制約地上でのテストが不可能という理由により、月面での製作は行われなかった。

そして、完成したD兵器は難民輸送船に積み込まれ、地球に向けて送り出された。地球ではその完動品3機と開発データを元に量産が行われる予定であった。だが、輸送船が発進した直後、計画が発覚し、輸送船に追撃部隊が送り込まれた。また、プラートも逮捕の手が及ぶが、その直前自殺したとも伝えられている。

4ギガノスの地球侵攻

帝国軍はメタル・アーマーによって宇宙の制空権を完全に掌握した。だが、本来、月面のような低重力地帯や、宇宙用に開発はされたメタル・アーマーを地球上で運用するには色々な問題があった。特に戦闘機並みの運動性が地球上では発揮できない点は重大であった。そのため、**フォルグ・ユニット**という増加飛行装置が開発されることになったが、量産は大幅に遅れた。

ギガノス地球侵攻軍は、占領下に置いた国の工業施設や人材を徴用して各種の地球用メタル・アーマーを開発・生産していった。ギガノス陸軍と海軍は、以前試作段階で開発が中断しているXAMA－06を地上用に改造した**AMA－06ドーラ**を戦線に投入した。AMA－06はバイク型のガンツァーと、高速水上艇型のゲルファーと組み合され、独自の機動力を持つに至った。AMA－06は日本に主要な生産基地があり、ガンツァーを装備した**ガン・ドーラ**は約7900機、ゲルファーを装備した**ゲル・ドーラ**は約2100機が生産され、各地に配備されている。

当初、航空戦力は戦闘機や爆撃機を使用していたが、ついに航空戦用のフォルグ・アーマー、**FFA－02シュワルグ**と、**AFA－03ダウツェン**を完成させた。

また、特殊任務用に**WAMA－07ズワイ**を開発している。これは停泊中の船舶を水中から接近し、破壊するという用途で生み出されたものだが、上陸作戦にも用いられる。

5地球連合軍の反抗作戦

連合軍はD兵器の入手により量産型の開発に着手した。だが、D兵器輸送部隊が2187年に8月に中国の連合軍量産工場に到着した時点では、すでに初の量産機**MBD－01Aドラグーン**は完成していた。自殺したと伝えられていたラング・プラートが、潜かに亡命していたのである。試作機であるドラグナーは、いわばおとり役と実戦データ収集という二重の役割を持たされていたのだ。

MBD－01は**D－1**、**D－2**、**D－3**の長所をミックスした設計であり、空戦能力も最初からもたされていた。当初は戦闘型、攻撃型、偵察型の3機種開発を予定していたが、それだけの余力はもう連合軍に残されていなかった。

また、プラートは戦闘で大きく損傷したD－1とD－2に修理を兼ねて改修を行っている。これはMBD－01開発によって得た新技術を2機に投下したもので、さらに超高性能機としてよみがえった。

メタル・アーマー対比図

連合軍戦闘ポッド▶

連合軍作業ポッド▶

◀キャバリアー0

▲左から、ドラウ、ゲバイ、ダイン、ゲルフ、ファルゲン、戦闘バイク、D－1、D－2、D－3

メタル・アーマー総合能力比較チャート

所属	開発コード	愛称（略称）	出力(10000ポンド)			CMPタイム MAX(S)	出力／重力比		最高速度(M)	装甲厚 MAX-mm	総合破壊力	総合対応力	総合生存性	トータルポイント
			ドライ	CMP	アフターバーナー		ドライ	CMP						
連合軍	XD-01	D－1	21,0	33,6	15,0	37,0	1,146	1,834	1,64	205	6	8	6	20
	XC-00	キャバリアー0	43,0	－	－	－	1,566	－	－	275	9	7	7	23
	XD-01SR	D－1カスタム	24,0	39,5	9,5	32,0	0,987	2,015	1,19	155	8	9	7	24
	XD-02	D－2	28,8	43,2	8,6	57,0	0,833	1,249	1,08	450	9	5	7	21
	XD-02SR	D－2カスタム	32,4	42,9	12,0	52,0	0,853	1,445	1,32	475	10	6	8	24
	XD-03	D－3	19,2	36,0	8,2	12,0	1,166	2,186	1,31	112	4	10	6	20
	MBD-1A	ドラグーン	28,0	34,0	8,0	46,0	1,199	1,798	1,47	250	7	8	7	22
帝国軍	FMA-04A	ダイン	16,0	25,0	4,0	25,0	0,962	1,502	0,95	175	5	6	5	16
	AMA-03B	ゲバイ	31,0	42,0	5,0	42,0	0,786	1,064	0,86	375	5	5	7	17
	RMA-07A	ドラウ	24,0	31,0	－	30,0	1,473	1,856	－	150	4	6	5	15
	YFMA-08A	ゲルフ	21,0	30,0	14,0	25,0	1,103	1,576	0,95	225	6	7	6	19
	YAMA-08B	ヤクト・ゲルフ	25,0	38,0	14,0	24,0	0,884	1,344	0,92	280	7	6	7	20
	YRMA-08C	レビ・ゲルフ	22,0	38,0	14,0	36,0	1,284	2,042	0,94	125	5	8	6	19
	XFMA-09	ファルゲン	22,0	35,0	13,0	36,0	1,151	1,831	0,98	225	6	8	7	21
	AMA-06B	ガン・ドーラ	22,4	－	－	－	－	－	530km	175	8	6	5	19
	AMA-06C	ゲル・ドーラ	14,7	－	－	－	－	－	140nt	250	8	5	6	19
	FFA-02	シュワルグ	17,0	23,0	8,0	38,0	1,224	2,233	1,63	85	6	7	4	17
	AFA-03	ダウツェン	21,0	27,0	9,0	36,0	1,260	2,161	1,50	115	7	6	5	18
	WAMA-07	ズワイ	28,0	41,0	－	42,0	－	－	69nt	250	6	5	5	16
	YAMA-13	ゲイザム	30,0	43,0	10,0	39,0	0,947	1,673	1,51	370	7	8	8	23
	AMA-03G	スタークゲバイ	32,0	44,4	6,0	40,0	0,699	1,310	0,98	375	7	6	7	20
	FMA-04G	スタークダイン	16,0	27,0	4,0	23,0	0,810	1,569	1,32	215	6	7	6	19
	AMA-06G	スタークガン・ドーラ	13,2	－	－	－	－	－	580km	220	9	6	6	21
	AFA-03G	スタークダウツェン	23,0	30,0	9,0	33,0	1,210	2,052	1,62	150	8	6	6	20

チャート注意

●キャバリアー0のデータはD－1との接続時のもの。
●D－1～3、ダイン、ゲバイ、ゲルフ、レビゲルフ、ヤクトゲルフ、ファルゲンは専用フォルグ・ユニット装備時のデータである。
●最高速度のうち、ダイン、ゲバイ、ゲルフ、レビゲルフ、ヤクトゲルフ、ファルゲンは高度9800フィート飛行時のデータ、他は32000フィート時のデータである。
●最高速度のうち、ガン・ドーラ、スタークガン・ドーラは、地上最高速度を、ゲル・ドーラは水上最高速度、ズワイは水中最高速度を記した。

METAL ARMOR DRAGONAR

地球連合軍・統一帝国ギガノス軍・軍組織図

- 地球連合国機構
  - 地球連合軍総司令本部
    - 宇宙戦闘軍司令本部
      - 戦略宇宙戦闘軍
        - 戦略防衛軍団
        - 戦略攻撃軍団
      - 戦術宇宙戦闘軍
        - 第3宇宙艦隊
        - 第4 〃
        - 第7 〃
    - 地球戦闘軍司令本部
      - 地球戦域軍集団
        - スカンジナビア戦域軍団 〈旧 名〉
          - 第3陸上戦域軍 — スウェーデン、フィンランド
          - 第5海洋戦域軍 — ノルウェー
        - ユーラシア戦域軍団
          - 第7陸上戦域軍 — 中国
          - 第12 〃 — ソビエト
          - 第13 〃 — NATO
          - 第16 〃 — ソビエト
          - 第2海洋戦域軍 — 日本
        - ノースアメリカ戦域軍団
          - 第1陸上戦域軍 — アメリカ
          - 第24 〃 — カナダ
        - オセアニア戦域軍団
          - 第8海洋戦域軍 — オーストラリア、ニュージーランド

- ギガノス軍総師 ギルトール元師
  - 最高幹部会議
  - 親衛機甲兵団 バーキンス少将
  - 統合参謀本部 グラウゼン元師
    - 宇宙侵攻軍団本部
      - 戦略機動宇宙軍 パウルス大将
        - 地球軌道軍 ラインハルト中将
          - 第1宇宙艦隊
          - 第2 〃
          - 第6 〃
        - 月面防衛軍
          - 第9宇宙艦隊
        - ラグランジュ軍 モーデル準将
          - 第3宇宙艦隊
          - 第4 〃
          - 第5 〃
          - 第7 〃
          - 第8 〃
      - 戦術機動宇宙軍
        - 月面戦域軍
          - 701 戦域軍
          - 702 〃
          - 703 〃
        - 機動侵攻軍
          - 801 機甲兵団
          - 802 〃
          - 804 〃
        - 機動占領軍
          - 803 機甲兵団
          - 805 〃
          - 806 〃
          - 807 〃
    - 地球侵攻軍団本部
      - 陸上戦域機動軍
        - A軍集団（ヨーロッパ軍）
          - 101 戦域軍
          - 102 〃
          - 103 〃
          - 104 〃
        - B軍集団（中東軍）
          - 205 戦域軍
          - 207 〃
          - 208 〃
        - C軍集団（アフリカ・アメリカ・グリーンランド）
          - 309 戦域軍
          - 310 〃
          - 311 〃
      - 海洋戦域機動軍
        - D軍集団（太平洋軍） パウルス少将
          - 401 海洋戦域軍
          - 402 〃
          - 403 〃
          - 404 〃
        - E軍集団（大西洋軍）
          - 505 海洋戦域軍
          - 506 〃
          - 507 〃
          - 508 〃
        - F軍集団（アジア・インド洋軍）
          - 609 海洋戦域軍
          - 610 〃
          - 611 〃
          - 612 〃

試作戦闘型メタル・アーマー

METAL ARMOR

DRAGONAR-1

ドラグナー1型

SPEC

開発コード	XD−01 "ドラグナー1型" 略称D−1
頭頂高	17.6メートル
動力	FPW−2D型 超小型核融合炉×2
出力 （※CMP=最大戦闘出力維持）	21万ポンド （ドライ） 33.6万ポンド（CMP） メインノズル×6 姿勢制御ノズル×12
CMP時間	37秒（MAX）回復時間 CMP≦5 2秒〜CMP=37 14秒
重量	運行自重 61.5トン 最大発進重量 91.6トン
出力／重量比	1.146(ドライ) 1.834(CMP)
探知装置	イメージセンサー TAS1型
装甲	マルチプルハイブリッド型ゼライトコーティング
装甲厚	MAX205mm
乗員	1名
基本武装	●75ミリハンドレールガンLPS9型 発射速度 1800発／分 携行弾数 作戦に応ず 弾 種 徹甲弾、爆裂弾 マルチディスチャージャーLPS9型用プラズマグレネード×2（スモーク、チャフ、フレア等も使用可） ●迫兵戦用レーザーソード×2 ●迫兵戦用アザルトナイフ×2 ●ハイブリッドシールド×1 ●対M・A用手留弾×2 ●2連25mm機関砲×2 発射速度 1500発／分 携行弾数 800発

足の裏（1、2、3兼用）

リア

サイド

フロント

75ミリハンドレールガン

ハイブリッドシールド

レーザーソード

スペアマガジン

対MA用手榴弾

スローイン ボム

アザルトナイフ

頭部

増加装甲システム

CABARIER-0

キャバリアー0型

キャバリアーを装着したD-1

SPEC	
開発コード	XC−00"キャバリアー0型"略称キャバリアー
全高	15.5メートル
動力	DPW−3D型　小型核融合炉
出力	43万ポンド
重量	運行自重　34.6トン 通常発進重量 137.3トン （D−1搭載時）
出力／重量比	1.566
探知装置	重力場感知システム　WG3型 イメージセンサー　TAH7型
装甲	リアクティブデュアルアーマーゼライトコーティング
装甲厚	MAX275mm
乗員	なし（D−1からコントロール、内蔵コンピューターにより稼動）
搭載兵器	D−1&兵装類1体分を内部収納
基本武装	● 220ミリレールキャノン×2 発射速度　32発／分 携行弾数　120発 弾　種　プラズマ弾 徹甲弾 爆裂弾

武器、その他を入れるトランクルーム

仮装飛行ユニット

急造の飛行装備

台車

艦載機の翼を流用し、推力はドラグナー本体がもつもののみ、足元にプロペラントタンクを着け、約10分飛行。ファルゲン・マッフ、ゲルフ・マッフと闘った。

D-1用フライトユニット

LIFTER-1

フライトユニット装備D-1

SPEC

識別コード	XDFU−01 "リフター1"
全幅	25.6メートル
動力伝達システム	DFGS−AFN
出力	21万ポンド （ドライ） 33.6万ポンド（CMP） ※アフターバーナー時、15万ポンドをプラス メインノズル×2 姿勢制御ノズル×4
基本重量	19.7トン
（以下、D−1装着時）	
最大速度	マッハ0.94（海面高度） マッハ1.19（32000フィート）
航続距離	2650ノーチカルマイル（4908km）
搭載兵装	●5連デュアルミサイルポッド×2 ○ハードポイント−2（ペイロード総量−12.3トン）

翼、上下します

飛行ポーズ

▶D−1カスタム 頭部

D-1改造メタル・アーマー

METAL ARMOR

D-1 CUSTOM

ドラグナー1型カスタムタイプ

SPEC

開発コード	XD−01SR "ディーワンカスタム"
頭頂高	17.6メートル
動力	FPW−4M 超小型核融合炉×2
出力	24万ポンド （ドライ） 39.5万ポンド（CMP） ※アフターバーナー使用時、9.5万ポンドをプラス メインノズル×6 姿勢制御ノズル×16
最大速度	マッハ0.98（海面速度） マッハ1.64(32000フィート)
航続距離	2460ノーチカルマイル（4556km）
CMP時間	32秒（MAX）回復時間 CMP≦51.8秒〜CMP＝32 8秒
重量	運行自重 78.7トン 最大発進重量 121.6トン
出力／重量比	0.987（ドライ） 2.015（CMP＋A／B）
探知装置	イメージセンサー TAS15型 重力場感知システム WG3S型
装甲	トリプルハードニス型ヘビーコーティング
装甲重	MAX 155㎜
乗員	1名
基本武装	●55.6ミリハンドレールガン LPS32型 発射速度 2200発／分 携行弾数 1620発 弾種 徹甲弾、爆裂弾、プラズマ化弾 ●6連デュアルミサイルポッド ×2 ●迫兵戦用レーザーソード×2 ●迫兵戦用アザルトナイフ×2 ●スーパーハイブリッドシールド ●対M・A用手留弾 ●スローインボム ●2連25㎜機関砲×2 発射速度 1500発／分 携行弾数 800発 弾種 徹甲弾、爆裂弾 ○ハードポイント−2（ペイロード総量18トン）

リア

フロント

シールド

METAL ARMOR DRAGONAR

試作攻撃型メタル・アーマー

METAL ARMOR

DRAGONAR-2

ドラグナー2型

SPEC

開発コード	XD−02“ディーツー”
頭頂高	16.8メートル
動力	FPW−4D型 超小型融合炉×2
出力	28.8万ポンド（ドライ） 43.2万ポンド（CMP） メインノズル×6 姿勢制御ノズル×12
CMP時間	57秒（MAX）回復時間 CMP≦5 5秒〜CMP=57 29秒
重量	運行自重 110.2トン 最大発進重量 172.9トン
出力／重量比	0.833(ドライ) 1.249(CMP)
探知装置	重力場感知システム WG9 イメージセンサー TAS3型
装甲	マルチプルハイブリッド型ゼライトコーティング
装甲厚	MAX450㎜
乗員	1名
基本武装	●88ミリハンドレールガンLPS7型 発射速度 1300発／分 携行弾数 540発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 マルチディスチャージャーLPS7型用プラズマグレネード×2（スモーク、チャフ、フレア等も使用可） ● 280ミリレールキャノン×2 発射速度 20発／分 携行弾数 120発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 プラズマ弾 ●75㎜2連装自動砲×2 発射速度 130発／分 携行弾数 40発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 ●2連25㎜機関砲×2 発射速度 1500発／分 ●迫兵戦用アザルトナイフ×2

88ミリハンドレールガン

頭部

フロント

サイド

リア

レールガン取り付け可能

2連ガトリング砲

D−2用ロケットランチャー

リフター2

D-2用フライトユニット

LIFTER-2

フライトユニット装備D-2

SPEC

識別コード	XDFU−02“リフターツー”
全幅	30.2メートル
動力伝達システム	DFGS−AWN
出力	28.8万ポンド（ドライ） 43.2万ポンド（CMP） アフターバーナー時 8.6万ポンドをプラス メインノズル（PW−F 403型ターボファン）×2
基本重量	27.3トン
（以下、D−2装着時）	
最大速度	マッハ0.94／海面速度 マッハ1.08／16000フィート
航続距離	5700ノーチカルマイル（10557km）
搭載兵装	●10連デュアルミサイルポッド×2 ○ハードポイント−2（ペイロード総量−16.7トン）

リア

飛行ポーズ

D-2改造メタル・アーマー

METAL ARMOR

D-2 CUSTOM

ドラグナー2型カスタム

SPEC

開発コード	XD−02SR“ディーツーカスタム”
頭頂高	16.8メートル
動力	FPW−4DM型　超小型核融合炉×2
出力	32.4万ポンド（ドライ） 42.9万ポンド（CMP） アフターバーナー使用時12万ポンドをプラス メインノズル×8 姿勢制御ノズル×14
最大速度	マッハ0.90／海面速度 マッハ1.32／32000フィート
航続距離	5850ノーチカルマイル（10836km）
CMP時間	52秒（MAX）CMP≦2秒〜CMP=52　26秒
重量	運行自重　132.5トン 最大発進重量　189.9トン
出力／重量比	0.853(ドライ) 1.445(CMP+A／B)
探知装置	イメージセンサー　TAS12型 重力場感知システム　WG9型
装甲	トリプルハードニス型ヘビーコーティング
装甲厚	MAX475㎜
乗員	1名
基本武装	●640ミリレールキャノンBM−06型 発射速度　180発／分 携行弾数　240発 弾種　徹甲弾　爆裂弾　プラズマ弾 ●88ミリハンドレールガンLPS33型 発射速度　1450発／分 携行弾数　660発 弾種　徹甲弾　爆裂弾 マルチディスチャージャー 携行弾数　3発 弾種　徹甲弾　爆裂弾　プラズマ化弾 ●75ミリ2連装自動砲 発射速度　130発／分 携行弾数　260発 弾種　徹甲弾　爆裂弾 ●10連デュアルミサイルポッド×2 ●2連ヘビィデュアルミサイル×2 ●白兵戦用アザルトナイフ×2 ●2連25㎜機関砲 発射速度　1500発／分 携行弾数　800発 弾種　徹甲弾　爆裂弾 ○ハードポイント−2（ペイロード総量27t）

リア

フロント

頭部

METAL ARMOR DRAGONAR

試作偵察型メタル・アーマー

METAL ARMOR

DRAGONAR-3

ドラグナー3型

SPEC

開発コード	XD−03 "ディースリー"
頭頂高	18.2メートル
動力	FPW−2F型 超小型融合炉×2
出力	19.2万ポンド（ドライ） 36.0万ポンド（CMP） メインノズル×4 姿勢制御ノズル×12
CMP時間	12秒（MAX）回復時間 CMP≦5 2秒〜CMP=12 9秒
重量	運行自重 44.5トン 最大発進重量 82.3トン （殆んどプロペラント剤）
出力／重量比	1.166(ドライ) 2.186(CMP)
探知装置	重力場感知システム WG11S型 イメージセンサー TAS3SR型
装甲	マルチプルハイブリッド型ゼライトコーティング
装甲厚	MAX112㎜
乗員	1名
基本武装	●50ミリハンドレールガンLPS3型 発射速度 2400発／分 携行弾数 320発 弾種 徹甲弾 ●迫兵戦用アサルトナイフ×2

D-3用フライトユニット

LIFTER-3

フライトユニット装備D-3

SPEC

識別コード	XDFU−03 "リフタースリー"
全幅	25.6メートル
動力伝達システム	DFGS−AFN
出力	19.2万ポンド（ドライ） 36万ポンド （CMP） アフターバーナー時、8.2万ポンドをプラス メインノズル×3 姿勢制御ノズル×12
基本重量	17.2トン
（以下、D−3に装着時のデータ）	
最大速度	マッハ0.95／海面速度 マッハ1.31／36000フィート
航続距離	2700ノーチカルマイル（5001㎞）
搭載兵装	●デュアルミサイル又は対レーダーミサイル×2 ○ハードポイント−2（ペイロード総量−8.7トン）

METAL ARMOR
D-SERIES
ドラグナーシステム

ムーバブルフレーム　フロント

リア

ドラグナー搭乗システム

ポッド

ドラグナーのフロッピーディスクとケース

ドラグナーの燃料補給口

コンテナ内ゴンドラ

D-1、2コクピット

D-3コクピット

レシーバー

コンテナ内部

ドラグナーコンテナ

量産型D兵器

METAL ARMOR

DRAGOON

量産型ドラグナー

脚部アーマー

リア

フロント

SPEC

開発コード	MBD－1A
頭頂高	17.3メートル
動力	IHI－301型　超小型核融合炉
出力	28万ポンド（ドライ） 34万ポンド（CMP） アフターバーナー時8万ポンドをプラス メインノズル×3 姿勢制御ノズル×17
最大速度	マッハ0.98／海面高度 マッハ1.47／32000フィート
航続距離	2920ノーチカルマイル（5408km）
CMP時間	46秒（MAX）回復時間 CMP≦5　2秒～CMP=46　12秒
重量	運行自重　79.2トン 最大発進重量 116.8トン
出力／重量比	1.199(ドライ) 1.798(CMP+A／B)
探知装置	イメージセンサー　TAS14型 重力場感知システム　WG3S型
装甲	トリプルハードニス型ヘビーコーティング
装甲厚	MAX 250mm
乗員	1名
基本武装	●460ミリレールキャノン KGX－9型 発射速度　240発／分 携行弾数　120発 弾種　徹甲弾　爆裂弾　プラズマ化弾 ●55.6ミリハンドレールガン　LPS22型 発射速度　2200発／分 携行弾数　810発 弾種　徹甲弾　爆裂弾 ●10連デュアルミサイルポッド×2 ●迫兵戦用レーザーソード ○ハードポイント－2（ペイロード総量17.5トン）

コクピット

戦闘型メタル・アーマー

METAL ARMOR

DEINS

メタル・アーマー ダイン

SPEC

識別コード	FMA－04A "ダイン"
頭頂高	17.3メートル
動力	JTF－3N型 超小型核融合炉×1
出力	16万ポンド（ドライ） 25万ポンド（CMP） メインノズル×4 姿勢制御ノズル×8
CMP時間	25秒（MAX）回復時間 CMP≦5 5秒～CMP＝25 20秒
重量	運行自重 57.1トン 最大発進重量 83.2トン
出力／重量比	0.962(ドライ) 1.502(CMP)
探知装置	イメージセンサー AS3型 重力場感知システム GVS5型
装甲	ステライド合成装甲＋対センサーコーティング
装甲厚	MAX 175mm
乗員	1名
基本武装	●50ミリハンドレールガンSSX5型 発射速度 2400発／分 携行弾数 255発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 ●マルチディスチャージャー×2 ロケット、スモーク、チャフ、フレア使用可 ●2連25mm機関砲×2 発射速度 1500発／分 携行弾数 720発

リア

フロント

足の裏

戦闘型メタル・アーマー

DEINS

地上型ダイン

280ミリハンド
レールキャノン

足の裏

フロント

リア

攻撃型メタル・アーマー

METAL ARMOR GEWEI

メタル・アーマー ゲバイ

SPEC

識別コード	AMA－03B "ゲバイ"
頭頂高	16.1メートル
動力	JTF－2D型 超小型核融合炉×1
出力	31万ポンド（ドライ） 42万ポンド（CMP） メインノズル×4 姿勢制御ノズル×4
CMP時間	42秒（MAX）回復時間CMP≦4 5秒～CMP＝42 32秒
重量	運行自重 147.4トン 最大発進重量 197.3トン
出力／重量比	0.786(ドライ) 1.064(CMP)
探知装置	イメージセンサー AS7型 重力場感知システム GVS5型
装甲	マルチプルハイブリッド型＋対センサーコーティング
装甲厚	MAX 375㎜
乗員	1名
基本武装	●50ミリハンドレールガンSSX55型 発射速度 1800発／分 携行弾数 425発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 ●30ミリ機関砲 発射速度 1500発／分 携行弾数 600発

フロント

リア

足の裏

4連105ミリハンドレールキャノン

50ミリハンドレールガン

偵察型メタル・アーマー

METAL ARMOR DREW

メタル・アーマー ドラウ

SPEC

識別コード	RMA－07A "ドラウ"
頭頂高	17.5メートル
動力	JTF－7A型 超小型核融合炉×1
出力	24万ポンド（ドライ） 31万ポンド（CMP） メインノズル×3 姿勢制御ノズル×2
CMP時間	30秒（MAX）回復時間CMP≦5 3秒～CMP＝30 18秒
重量	運行自重 63.3トン 最大発進重量 83.5トン
出力／重量比	1.437(ドライ) 1.856(CMP)
探知装置	イメージセンサー ASV2型 重力場感知システム GVL1型
装甲	ステライド合成装甲＋対センサーコーティング
装甲厚	MAX 150㎜
乗員	1名
基本武装	●50ミリハンドレールガンSSX5型 発射速度 2400発／分 携行弾数 255発 弾種 徹甲弾 爆裂弾

リア

フロント

8m級アクティブホーミングミサイル

試作戦闘型メタル・アーマー

METAL ARMOR

FALGUEN

メタル・アーマー ファルゲン

SPEC

項目	内容
識別コード	XFMA−09 “ファルゲン”
頭頂高	17.9メートル
動力	JTF−7C型 超小型核融合炉×1
出力	22万ポンド（ドライ） 35万ポンド（CMP） メインノズル×2 姿勢制御ノズル×8
CMP	36秒（MAX）回復時間 CMP≦5 3秒〜CMP=36 15秒
重量	運行自重 66.1トン 最大発進重量 95.6トン
出力／重量比	1.151(ドライ) 1.831(CMP)
探知装置	イメージセンサー ASV2型 重力場感知システム GVS5型
装甲	シモールA型パッシブ装甲
装甲厚	MAX 225㎜
乗員	1名
基本武装	●75ミリハンドレールガンSSX9型 発射速度 2000発／分 携行弾数 630発 弾種 徹甲弾 爆装弾 マルチディスチャージャーSSX9型用プラズマグレネード×2(スモーク、チャフ、フレア発射可) ●迫兵戦用レーザーソード×2 ●3連マルチディスチャージャー×2 ロケット スモーク、チャフ、フレア使

リア

足の裏

75ミリハンドレールガン

迫兵戦用レーザーソード

フロント

ファルゲン用フォルグユニット

FALGUEN MAFFU

ファルゲン マッフ

SPEC

項目	内容
識別コード	MAFFU−09 “ファルゲン・マッフ”
全幅	26.5メートル
動力伝達システム	DFGS−C7
出力	22万ポンド（ドライ） 35万ポンド（CMP） アフターバーナー時13万ポンドをプラス メインノズル×6
基本重量	23.7トン
（以下、ファルゲン装着時データ）	
最大速度	マッハ0.85／海面高度 マッハ0.98／9800フィート
航続距離	2680ノーチカルマイル（4964㎞）
搭載兵装	●デュアルミサイル×6 ●3連マルチディスチャージャー×2 ○ハードポイント−4（ペイロード総量−18.5トン）

コクピット

フロント

リア

パイロン

75ミリハンドレールガン

リア

戦闘型メタル・アーマー

METAL ARMOR GELF

メタル・アーマー ゲルフ

フロント

SPEC

項目	データ
識別コード	YFMA－08A"ゲルフ"
頭頂高	7.6メートル
動力	JTF－7B型 超小型核融合炉×1
出力	21万ポンド（ドライ） 30万ポンド（CMP） メインノズル×2 姿勢制御ノズル×4
CMP時間	25秒（MAX）回復時間 CMP≦5 5秒～CMP＝25 20秒
重量	運行自重 65.9トン 最大発進重量 95.2トン
出力／重量比	1.103(ドライ) 1.576(CMP)
探知装置	イメージセンサー AS5型
装甲	シモールA パッシブ装甲
装甲厚	MAX 225㎜
乗員	1名
基本武装	●75ミリハンドレールガンSSX7型 発射速度 1800発／分 携行弾数 455発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 ●迫兵戦用レーザーサーベル×1

ゲルフ用フォルグユニット

GELF MAFFU

ゲルフ マッフ

SPEC

項目	データ
識別コード	MAFFU－08"ゲルフマッフ"
全幅	26.1メートル
動力伝達システム	DFGS－C9
出力	25万ポンド（ドライ） 38万ポンド（CMP） アフターバーナー時14万ポンドをプラス メインノズル×2 姿勢制御ノズル×2
基本重量	24.3トン
（以下 ゲルフ装着時データ）	
最大速度	マッハ0.86／海面速度 マッハ0.95／9800フィート
航続距離	2870ノーチカルマイル（5315㎞）
搭載兵装	●5連ミサイルポッド×2 ○ハードポイント－4（ペイロード総量－17.5トン）

リア

フロント

偵察型メタル・アーマー

REVI GELF

レビ ゲルフ

攻撃型メタル・アーマー

JAKT GELF

ヤクト ゲルフ

フロント

SPEC

項目	データ
識別コード	YAMA－08C"レビゲルフ"
頭頂高	17.8メートル
動力	JTF－7C型 超小型核融合炉×1
出力	22万ポンド（ドライ） 35万ポンド（CMP） メインノズル×2 姿勢制御ノズル×4
CMP時間	36秒（MAX）回復時間 CMP≦5 3秒～CMP＝36 15秒
重量	運行自重 58.5トン 最大発進重量 85.7トン
出力／重量比	1.284(ドライ) 2.042(CMP)
探知装置	イメージセンサー AS5型 重力場感知システム GVL2型
装甲	シモールAパッシブ装甲
装甲厚	MAX 125㎜
乗員	1名
基本武装	●75ミリハンドレールガンSSX7型 発射速度 1800発／分 携行弾数 455発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 ●迫兵戦用レーザーサーベル×1

リア

SPEC

項目	データ
識別コード	YAMA－08B"ヤクトゲルフ"
頭頂高	7.5メートル
動力	JTF－7L型 超小型核融合炉×1
出力	25万ポンド（ドライ） 38万ポンド（CMP） メインノズル×2 姿勢制御ノズル×4
CMP時間	24秒（MAX）回復時間 CMP≦5 4秒～CMP＝24 16秒
重量	運行自重 91.7トン 最大発進重量 141.4トン
出力／重量比	0.884(ドライ) 1.344(CMP)
探知装置	イメージセンサー ASV2
装甲	シモールA パッシブ装甲
装甲厚	MAX 280㎜
乗員	1名
基本武装	●75ミリハンドレールガンSSX7型 発射速度 1800発／分 携行弾数 455発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 ●220ミリレールキャノン×2 発射速度 32発／分 携行弾数 120発 弾種 プラズマ化弾 徹甲弾 爆裂弾 ●200ミリ3連ロケット弾ポッド×2 ●150ミリ2連ロケット弾ポッド×2 ●25ミリ機関砲×2 発射速度 1500発／分 携行弾数 800発

フロント

リア

攻撃型メタル・アーマー

METAL ARMOR

DOLLA

メタル・アーマー ドーラ

上面

バイク型メタル・アーマー

GAN-DOLLA

バイクメタル・アーマー

パラシュート

車輪広がる

バイクユニット

GANTER

SPEC

全高	8.5~13.2メートル（合体時）
動力	JTF－2S型　超小型核融合炉 姿勢制御ノズル×4
最大速度	530km/h（地上）
重量	運行自重　23.2トン 戦闘重量　41.9トン
装甲	ステライド合成装甲　対センサーコーティング
装甲厚	MAX 175mm
乗員	1名
基本武装	●80ミリ　マルチディスチャージャー×2

SPEC	
識別コード	AMA−06B（C）"ドーラ"
全高	8.5〜13.2メートル（ガン・ドーラ） 10.4メートル（ゲル・ドーラ）
動力	JTF−2S型　超小型核融合炉
出力	11.2万ポンド（ドライ） メインノズル×2 姿勢制御ノズル×4
重量	運行自重　20.4トン 戦闘重量　41.4トン
探知装置	イメージセンサー　AS7M型
装甲	ステライド合成装甲　対センサーコーティング
装甲厚	MA×175mm（250mm）
乗員	1名
基本武装	●105ミリ2連装レールキャノン　SSX12型 発射速度　1350発／分 携行弾数　320発 弾種　徹甲弾　爆裂弾 ●7連IRMポッド×2 ●デュアルミサイル×2 ○ハードポイント−4（ペイロード総量−13トン）

下面

マリン型メタル・アーマー

GEL-DOLLA

マリンメタル・アーマー

左右のフロート、倒れてのびる

マリンユニット

GELTFER

SPEC	
頭頂高	10.4メートル（合体時）
動力	PW−F−701型　ターボファン×2
出力	3.5万ポンド メインノズル×2 姿勢制御ノズル×4
最大速度	140ノット（259km/h水上）
重量	運行自重　36.7トン 戦闘重量　72.5トン
探知装置	ソナー　DS−S−5型
装甲	ステライド合成装甲　対センサーコーティング
装甲厚	MAX 250mm
乗員	1名
基本武装	●50ミリ　自動砲×1 ●80センチ誘導魚雷×4 ○ハードポイント−2（ペイロード総量−12トン）

フォルグユニット

FORG ARMOR

DAUZEHN

フォルグ・アーマー ダウツェン

高速飛行時、フロント

SPEC

識別コード	AFA−03"ダウツェン"
頭頂高	18.7メートル
動力	JTF−7L型 超小型核融合炉×1
出力	21万ポンド（ドライ） 27万ポンド（CMP） アフターバーナー時 9万ポンドプラス メインノズル×2 姿勢制御ノズル×8
最大速度	マッハ0.98／海面速度 マッハ1.50／32000フィート
航続距離	3400ノーチカルマイル（6297km）
CMP時間	36秒（MAX）回復時間 CMP≦5 3秒〜CMP＝36 18秒
重量	運行自重 57.2トン 最大発進重量 83.3トン
出力／重量比	1.260(ドライ) 2.161(CMP+A／B)
探知装置	イメージセンサー ASF3型 重力場感知システム GVLF2型
装甲	ステライド合成装甲 対センサーコーティング
装甲厚	MAX115mm
乗員	1名
基本武装	●80ミリハンドレールガン SSX13型 発射速度 3600発／分 携行弾数 680発 弾種 徹甲弾 ●30ミリ機関砲 発射速度 4500弾／分 携行弾数 1200発 ●5連IRMポッド×2 ●爆弾投射機×2 ○ハードポイント−4（ペイロード総量−17トン）

フロント

ハンドレールキャノン

リア

高速飛行時、リア

フォルグユニット

FORG ARMOR

SCHWALG

フォルグ・アーマー シュワルク

SPEC

識別コード	ＦＦＡ−02"シュワルグ"
頭頂高	ＪＴＦ−５Ａ　超小型核融合炉×１
出力	17万ポンド（ドライ） 23万ポンド（CMP） アフターバーナー時８万ポンドプラス メインノズル×１ 姿勢制御ノズル×14
最大速度	マッハ0.98／海面速度 マッハ1.63／32000フィート
航続距離	3400ノーチカルマイル（6297km）
CMP時間	38秒（MAX）回復時間ＣＭＰ≦５　４秒〜ＣＭＰ＝38　21秒
重量	運行自重　48.0トン 最大発進重量　69.4トン
出力／重量比	1.224(ドライ) 2.233(CMP＋A／B)
探知装置	イメージセンサー　ＡＳＦ４型 重力場感知システム　ＧＶＬＦ２型
装甲	ステライド合成装甲　対センサーコーティング
装甲厚	ＭＡＸ85㎜
乗員	１名
基本武装	●50ミリハンドレールガンＳＳＸ21型 発射速度　2200発／分 携行弾数　600発 弾種　徹甲弾 ●30ミリ機関砲 発射速度　4500発／分 携行弾数　1600発 ●デュアルミサイル×２ ○ハードポイント−４（ペイロード総量−11トン）

フロント

高速飛行時、フロント

50ミリハンドレールガン

リア

高速飛行時、リア

先行量産型メタル・アーマー

METALARMOR

GEIZUM

メタル・アーマー ゲイザム

SPEC

識別コード	YAMA−13"ゲイザム"
頭頂高	17.7メートル
動力	JTF−8A型 超小型
出力	30万ポンド（ドライ） 43万ポンド（CMP） アフターバーナー時 10万ポンドプラス メインノズル×2 姿勢制御ノズル×6
最大速度	マッハ0.97／海面速度 マッハ1.51／32000フィート
航続距離	1680ノーチカルマイル（31111km）
CMP時間	39秒（MAX）回復時間 CMP≦5 2秒〜CMP＝39 15秒
重量	運行自重 95.2トン 最大発進重量 143.2トン
出力／重量比	0.947(ドライ) 1.673(CMP＋A／B)
探知装置	イメージセンサー ASV5型 重力場感知システム GLV5型
装甲	シモールA型 ヘビーコーティング
装甲厚	MAX×370mm
乗員	1名
基本武装	●50ミリハンドレールガン SSX5R型 発射速度 2400発／分 携行弾数 960発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 ●30ミリ機関砲 SS×5R型 発射速度 4500発／分 携行弾数 1200発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 ●対M・Aハンドグレネード×8 ●迫兵戦用ハイブリッドブロードサーベル

フォルグユニット外した状態

50ミリハンドレールガン

フロント

リア

グンジェム隊マーク

量産強化型メタル・アーマー

STARK DAUZEHN

スターク ダウツェン

SPEC

識別コード	AFA−03G"スタークダウツェン"
頭頂高	18.7メートル
動力	JTF−7N型 超小型核融合炉
出力	23万ポンド（ドライ） 30万ポンド（CMP） アフターバーナー時、9万ポンドプラス メインノズル×2 姿勢制御ノズル×8
最大速度	マッハ0.98／海面速度 マッハ1.62／32000フィート
航続距離	3600ノーチカルマイル（6667km）
CMP時間	33秒（MAX）回復時間 CMP≦5 3秒〜CMP＝33 16秒
重量	運行重量 57.8トン 最大発進重量 86.2トン
出力／重量比	1.210(ドライ) 2.052(CMP＋A／B)
探知装置	イメージセンサー ASF3型 重力場感知システム GVLF3型
装甲	ステライド2型ヘビーコーティング
装甲厚	MAX150mm
乗員	1名
基本武装	●220ミリレールキャノン SBX07型 発射速度 250発／分 携行弾数 1200発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 ●5連IRMポッド×2 ●爆弾投射機×2 ●電子戦用エリントポッド×2 ○ハードポイント−4（ペイロード総量18トン）

ハイブリッド・サージ

フロント

リア

フロント

220ミリレールキャノン

量産強化型メタル・アーマー

STARK DEINS

スターク ダイン

SPEC

識別コード	FMA−04G"スタークダイン"
頭頂高	17.9メートル
動力	JTF−3M型 超小型核融合炉
出力	16万ポンド（ドライ） 27万ポンド（CMP） アフターバーナー時 4万ポンドプラス メインノズル×6 姿勢制御ノズル×6
最大速度	マッハ0.96／海面速度 マッハ1.32／32000フィート
航続距離	1740ノーチカルマイル（3222km）
CMP時間	23秒（MAX）回復時間 CMP≦5 3秒〜CMP＝23 16秒
重量	運行自重 62.3トン 最大発進重量 89.6トン
出力／重量比	0.810(ドライ) 1.569(CMP＋A／B)
探知装置	イメージセンサー AS3M型 重力場感知システム AVS5型
装甲	ステライド2型 ヘビーコーティング
装甲厚	MAX215mm
乗員	1名
基本武装	●50ミリハンドレールガン SSX5T型 発射速度 2200発／分 携行弾数 960発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 ●2連20ミリ機関砲×2 ●対M・Aハンドグレネード×4 ●迫兵戦用ハイブリッドサージ（のこぎり）×2

量産強化型メタル・アーマー

STARK GEWEI
スターク ゲバイ

SPEC

識別コード	AMA−03G“スタークゲバイ”
頭頂高	18.2メートル
動力	JTF−2G型 超小型核融合炉
出力	32万ポンド（ドライ） 44万ポンド（CMP） アフターバーナー時 6万ポンドプラス メインノズル×4 姿勢制御ノズル×6
最大速度	マッハ0.82／海面速度 マッハ0.98／16000フィート
航続距離	1650ノーチカルマイル（3056km）
CMP	40秒（MAX）回復時間 CMP≦5 2秒〜CMP=40 26秒
重量	運行自重 150.4トン 最大発進重量 20[illegible].7トン
出力／重量比	0.699(ドライ) 1.310(CMP+A+B)
探知装置	イメージセンサー AS7M型 重力場感知システム GVS5型
装甲	マルチプルハイブリッド型ヘビーコーティング
装甲厚	MAX375㎜
乗員	1名
基本武装	● 450ミリレールキャノン SBX12型 発射速度 90発／分 携行弾数 60発 弾種 プラズマ化弾 ●50ミリハンドレールガン SSX5S型付 発射速度 2100発／分 携行弾数 360発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 ●30ミリ機関砲×2 発射速度 1500発／分 携行弾数 600発 ●対M・Aハンドグレネード×8

量産強化型メタル・アーマー

STARK GAN-DOLLA
スターク ガン・ドーラ

75ミリハンドレールガン

フロント

450ミリレールキャノン

リア

フロント

SPEC

識別コード	AMA−06G“スタークガン・ドーラ”
全高	8.5〜13.2メートル(合体時)
動力	JTF−2R型 超小型核融合炉×2
出力	13.2万ポンド×2（ドライのみ） メインノズル×4 姿勢制御ノズル×4
最大速度	580km／h·(地上)
重量	運行自重（ドーラ） 21.5トン （ガンツァー） 23.6トン 戦闘重量（ドーラ） 42.6トン （ガンツァー） 42.9トン
出力／重量比	1.406(ドーラ、ドライのみ)
探知装置	イメージセンサー AS7M型 重力場感知システム GVS5型
装甲	ステライド2型 ヘビーコーティング
装甲厚	MAX220㎜
乗員	1名
基本武装（ドーラ）	● 450ミリレールキャノン SBX10型 発射速度 120発／分 携行弾数 120発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 プラズマ化弾 ●75ミリハンドレールガン SSX14型 発射速度 2000発／分 携行弾数 375発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 ●7連IRMポッド×2 ●デュアルミサイル×2 ●迫兵戦用レーザーソード×2 ○ハードポイント−4（ペイロード総量13トン）
（ガンツァー）	●80ミリマルチディスチャージャー×2

特殊任務型メタル・アーマー

METAL ARMOR

ZUWAI
水陸両用メタル・アーマー ズワイ

SPEC

識別コード	WAMA−07A“ズワイ”
頭頂高	17.4メートル
動力	JTF−8W型 超小型核融合炉
出力	28万ポンド（ドライ） 41万ポンド（CMP） メインノズル×3 姿勢制御ノズル×17
最大速度	69ノット（海中）
CMP時間	42秒（MAX）回復時間 CMP≦5 2秒〜CMP=42 18秒
重量	運行自重 97.0トン 最大発進重量 152.0トン
探知装置	イメージセンサー AS7型 重力場感知システム GVL5W型 水中センサー WP2型 デュアルソナー
装甲	ステライド2型 アンチソナーコーティング
装甲厚	MAX250㎜
乗員	1名
基本武装	●50ミリハンドレールガン SSX5W型 発射速度 1600発1分 携行弾数 240発 弾種 徹甲弾 爆裂弾 ●4連デュアルミサイルポッド

バーニア

フロント

足ヒレ、
地上では起きる

ケーン・ワカバ

お調子者で熱血漢

スペースコロニー・アルカードでアストロノーツアカデミーに通っていたが、ひょんなことから連合軍の重要機密“ドラグナー”のパイロットに登録されてしまう。軟派な性格だが正義感は人一倍強く、現在リンダにベタ惚れ中。

リーゼント姿

軍服姿

私服

少年時代のケーン

METAL ARMOR DRAGONAR

ライト・ニューマン

貴族の血を引くパソコンマニア

アストロノーツアカデミーでケーンと一緒だった親友。英国貴族の血を引く家柄で、大のコンピューターマニアである。沈着冷静で3人の中では頭脳的な存在。ケーン同様D－3のパイロットに登録されてしまう。

軍服姿

私服

軍服姿

私服

ライト同様、ケーンの親友の一人。ニューヨークに家族が住んでおり、毎月仕送りをしているという家族思いの好青年。大の音楽好きで、愛用のCDプレーヤーは命から3番目に大切な物らしい。D－3のパイロットに登録されてしまう。

家族思いで音楽好き

タップ・オセアノ

リンダ・プラート

実兄との敵対関係に悩む

メタル・アーマーの設計者を父に、ギガノス軍のエースパイロットを兄に持つ少女リンダ。作品中では、兄マイヨとケーンたちとの間に板ばさみになり、苦脳する姿が多分に描かれている。だが、ケーンたちとの生活の中で少しづつ心を開いていくようになる。

私服

新コスチューム

月からの難民としてアイダホに乗り込んでいたダイアンだが、実のところは地球連合軍の情報員である。ケーンたちのお姉さん的存在であり、相談相手でもある。
D兵器に関して特別な任務を受けていると言われているが、現在のところ不明である。

地球連合軍の美人情報員

ダイアン・ランス

軍服姿（新コスチューム）

私服

ローズ・パテントン

純粋無垢なキャピキャピ少女

リンダ、ダイアンと同様に難民としてアイダホに乗っていた少女。その明るい性格はケーンたちの心をなごませてくれる。タップにほのかな想いを寄せており、兄のようにしたっている。現在、行方不明の両親の消息を知るためにケーンたちと行動を供にしている。

私服

新コスチューム

METAL ARMOR DRAGONAR

マイヨ・プラート

ギガノスの蒼き鷹

リンダの実兄で、「ギガノスの蒼き鷹」と呼ばれているギガノス軍のエースパイロットである。しかし、D兵器奪回の任についてからというもの、かつての栄光は影も形もなく、左遷につぐ左遷で最前線に送り込まれるはめになる。

パイロットスーツ姿

プラクティーズ

未来の士官候補生

ギガノス軍の若きエリートパイロット。マイヨ・プラートを崇拝しており、自分たちはエリートであるということに多大なプライドを持っている。ケーンたちに異様なまでのライバル心を持ち、ドラグナー打到に燃えている。

オーバー・コート姿

ダン・クリューガー

カール・ゲイナー

ウェルナー・フリッツ

連合軍マーク

地球連合軍側

O兵器を主軸に巻き返しを計る

ロイ・ギブソン

ケニー・ダンカン

ジェームス・C・ダグラス

ベン・ルーニー

副官

ターナー

ホイットマン

ギニール

アオイ・ワカバ

ジム・オースチン

准尉

輸送隊隊長

空母艦長と副官

情報将校

デリング

ゲドマン

METAL ARMOR DRAGONAR

ギガノス帝国軍側

理想と哲学のもとに地球を制圧

ギガノス軍マーク

モーデル

パーキンス

参謀大将

参謀中将

ギルトール

司令官

艦長

ハウゼン

ラインハルト

パウエル

スパイたち

スパイ

チェホフ

ホルツ

ビル・ブライアン

キンメル

グルデン

グン・ジェム隊

ギガノスの蒼き鷹にかわる強敵

召還され、月に帰ったマイヨ・プラートにかわり、ケーンたちドラグナーの前に立ちはだかる強敵、それがグン・ジェム隊である。
隊長のグン・ジェム大佐を初め、ゴル大尉、ガナン大尉、ミン大尉、ジン中尉と一筋なわではいかない強者がそろっている。

ガナン大尉

グン・ジェム大佐

ゴル大尉

ジン大尉

ミン大尉

地球連合軍宇宙戦力

難民輸送用擬装
輸送船"アイダホ"

D兵器を地球の連合軍本部に輸送するために難民輸送船に擬装している

"アイダホ"内弾薬運搬用ワゴン

"アイダホ"対空機銃

宇宙高速戦闘艇

スペースランチ

宇宙船同士の連絡に用いられている機体。

訓練用ポッド

ドラグナーの訓練機として、模擬弾ランチャーを仮設した機体。

作業用ポッド

船外作業用の機体。マジックハンドと作業用トーチを装備している。

戦闘用ポッド

連合宇宙軍の主力兵器。だが、MAとは3倍以上の戦力差がある。

宇宙輸送船

第一機動艦隊
軽巡洋艦"アマゾン"

"アイダボ"護衛艦隊の1隻。同型艦がもう2隻同行している。

第一機動艦隊旗艦
戦艦"ミンダナオ"

"アイダホ"護衛のために派遣された艦隊の旗艦。艦長はターナ大佐。

METAL ARMOR DRAGONAR

統一帝国ギガノス軍宇宙戦力

戦艦"グラビウス"

"アイダホ" 第二次追撃隊の戦艦。各所についている球状のものは、MA用コンテナである。

■コンテナ上部
MA出入口

巡洋艦"フンボルト"

"アイダホ" 第1次追撃隊。

宇宙高速艇

巡洋艦クラスに較べてMA搭載数、武装は劣るが、速度が格段に速い。

偵察人工衛星

衛星軌道上から、地球連合軍の地上戦力を常時監視しつづけている。

小型スペースシャトル

軌道上の艦艇と地上の基地を結ぶ連絡機。武装は特にない。

宇宙強襲揚陸艇

コロニー内に戦力を送り込むことを目的とした兵器。内部に戦闘バイクを格納している。

宇宙補給艦

EC宇宙総合実験センターの物資を回収に来たチェホフ中尉の艦。

軌道上宇宙要塞

衛星軌道軍の基地。直接地上を攻撃できるレーザー砲を装備している他、補給基地としての機能を備えている。

宇宙浮遊砲台

中継基地防衛用無人戦闘衛星。基地からの操作で移動、攻撃できる。

地球連合軍地上戦力

航空母艦"アクアポリス"

●アイランド（司令塔）

●艦載機配置図

連合軍第五海洋戦域軍所属アイランド級航空母艦。"アイダホ"からD兵器輸送任務をひきついだ。

早期警戒機装備
投下型ソナープローブ

●航空母艦上　ミサイル・ランチャー

●航空母艦上　バルカン砲塔

ラジコン対潜ヘリ 航空母艦積載

航空母艦積載 ランチ(内火艇)

航空母艦積載 電源車

航空母艦積載 航空機索引車

対潜・救難ヘリコプター

航空母艦艦載機。対潜水艦攻撃任務、海上救助活動なども行なえる多目的機。

早機警戒機

航空母艦艦載機。母艦より先行して、敵潜水艦などの警戒任務にあたる。

複座型戦闘・攻撃機

戦闘・攻撃機

航空母艦艦載機。連合軍主要航空兵力だが、ギガノスのＦＡに較べると戦闘力はかなり劣る。

オーストラリア軍 装甲車

航空母艦

駆逐艦

D兵器輸送艦隊の護衛艦。同型艦二隻が空母に同行している。

航空母艦"イースヨー"

連合軍第七海洋戦域軍所属航空母艦。D兵器を、量産基地重慶まで運搬する任務につく。MAが発進可能なようにカタパルトが改装されている。

軍用ジープ

モーターバギー

コロニー内で使用されている車両。エンジンではなく、電動モーターが動力。

オーストラリア軍ジープ

METAL ARMOR DRAGONAR

統一帝国ギガノス軍地上兵力

高速偵察機

輸送・哨戒機

MA降下作戦を主任務とする大型汎用航空機。

戦闘バイク

コロニー強襲部隊が使用する特殊車両。磁気性のタイヤで、鉄の壁ならば登ることができる。

巡航魚雷 クルーズ・ピート

大洋横断超長距離大型巡航魚雷。それ自体が大型魚雷としての能力を持つが、各所に対艦・対空用のロケットランチャーを備えている。ロングレンジ・ブースターを装備することにより、さらに長距離の巡航が可能となる。

小型輸送機

小火器・小物

ギガノス軍
マイヨ・プラート専用拳銃

ギガノス軍 制式銃

ギガノス軍
プラクティーズ用拳銃

連合軍 歩兵用携帯式
ミサイル・ランチャー

連合軍 **制式銃**

電子トーチ

EC宇宙ステーション内
コーキングガン

マイヨ・プラートの
アタッシュケース

ローズのブローチ（左）とリンダのブレスレット（下）

ケーンとタップが出撃時のお守りとしてふたりにもらったもの。

連合軍 **召集令状**

D兵器のフロッピー・ディスクとケース

タップのスピーカー付
CDウォークマン

特殊派遣部隊　ゲルポック部隊

ギガノス軍がドラグナーを打倒するために地球へ派遣した特殊部隊。ギガノス軍内でも1、2を争う実力を誇る。プラクティーズ仕様のものとは塗装が異なるゲルフを駆る。

●チェンドル少尉(45歳)
ヤクトゲルフマッフ搭乗

●ゲルポック少佐(40歳)
ゲルフマッフ搭乗

●アデン中尉(30歳)
レビゲルフ搭乗

ヤクトゲルフマッフ

チェンドル専用機

バックパックに火器を内蔵している。状況、敵目標によって僚機に手わたす。

バックパック内兵器

コーキングガン

マシンガン

バズーカ

レビゲルフマッフ

SPEC

識別コード　MAFFU−08C
愛称　レビゲルフ　マッフ
全幅　21.1m
動力伝達システム　DFGS−C9
出力　25万ポンド（ドライ）
　　　38万ポンド（CMP）
　※アフターバーナー時　14万ポンドプラス
　メインノズル　×2
　姿勢制御ノズム　×2
基本重量　24.6トン
（レビゲルフ装着時データ）
最大速度　マッハ0.86／SL（海面高度）
　　　　　マッハ0.94（9800フィート）
航続距離　2850ノーチカルマイル（5278km）
搭載兵装　●5連ミサイルポッド
　　　　　●EDWアンテナ
　　　　　（Erectric Diseption Warfare＝電子偽騙）
　　　　　○ハードポイント　×2
　　　　　（ペイロード総量−17.2トン）

ヤクトゲルフマッフ

プラクティーズ仕様

SPEC

識別コード　MAFFU-0813
愛称　ヤクトゲルフ　マッフ
全幅　26.1m
動力伝達システム　DFGS−C9
出力　25万ポンド（ドライ）
　　　38万ポンド（CMP）
　※アフターバーナー時　14万ポンドプラス
　メインノズル　×2
　姿勢制御ノズル×2
基本重量　27.8トン
（ヤクトゲルフ装着時データ）
最大速度　マッハ0.83／SL（海面高度）
　　　　　マッハ0.92（9800フィート）
航続距離　2790ノーチカルマイル（5167km）
搭載兵装　●5連ミサイルポッド　×2
　　　　　●220mmレールキャノン　×2
　　　　　　　（本体より移転）
　　　　　○ハードポイント　×4
　　　　　（ペイロード総量−14トン）

アジア方面軍メタルアーマー

ダインマッフ

SPEC

識別コード　MAFFU−04
愛称　ダインマッフ
全幅　16.2m
動力伝達システム　DFGS−5B
出力　16万ポンド（ドライ）
　　　25万ポンド（CMP）
　※アフターバーナー時　4万ポンドプラス
　メインノズル　×4
基本重量　18.2トン
最大速度　マッハ0.92／SL（海面高度）
　　　　　マッハ0.95（9800フィート）
航続距離　1970ノーチカルマイル（3093km）

ゲバイマッフ

大気圏内戦闘用にフォルグユニットを装備。

SPEC

識別コード　MAFFU−05
愛称　ゲバイマッフ
全幅　16.7m
動力伝達システム　DFGS−C6
出力　31万ポンド（ドライ）
　　　42万ポンド（CMP）
　※アフターバーナー時　5万ポンドプラス
　メインノズル　×4
基本重量　18.2トン
（ゲバイ装着時データ）
最大速度　マッハ0.80／SL（海面高度）
　　　　　マッハ0.86（9800フィート）
航続距離　1540ノーチカルマイル（2852km）

企画デザイン 文芸資料

初期デザイン—MA①—

「機甲戦記ドラグナー」が現在放映されている作品の世界観や設定、デザインが決定されるまでに、企画段階から幾つもの試行錯誤が繰り返された。ここではその間に生み出されたデザインや文芸資料を紹介しよう。

ドラグナー1型

(企画時名称グランダスト1)

ここにカラーで紹介するMA（メタルアーマー）デザインは大河原氏が自らイメージカラーとして着彩したものです。

▲▼86年8月8日付
決定稿と若干装備が違うのみでシルエットはほとんど同一といっていいだろう。

▲86年8月8日付
頭部のバイザーのアイディアが面白い

▼86年8月19日付
8日に出されたものに手を加え、パーツ構成が変わった

▲86年8月8日付
ベースデザインの影響か、「ガンダム」と「バイファム」のイメージが強い

METAL ARMOR DRAGONAR

ドラグナー2型

（企画時名称グランダスト2）

▲86年8月8日付
「グランダスト1」の候補デザインとして描かれていたもの

▲86年8月29日付
ムーバブルフレームを使用した最初のデザイン

▲86年8月27日付
右のデザインのベースとなったムーバブルフレームの第一稿

◀▼86年9月16日付
頭部が若干違うのみで、ほぼ決定稿と同じデザイン

▲86年8月21日付

▶86年8月8日付
右のものと同様に出されたものだが、頭部のデザインがD－2に至った

▲86年8月21日付

ドラグナー3型

（企画時名称グランダスト3型）

86年8月19日付
D－3のベースとなった
キャバリアーデザイン案

▲86年8月29日付

▲86年8月19日付

▶日付不明
MX＝II　ギルトールとして描かれている

▶86年5月19日付

▲86年8月21日付

ゲバイ

（企画時名称ギルトール）

▲日付不明
＃1　ヤラレメカ　ギルトール
と書かれている

▶86年5月19日付
上のデザインと共にベースデザインとなったもの

ファルゲン ダイン ゲルフ

▶86年7月26日付 右下のデザインを着彩で細部変更したもの

▶日付不明

◀86年7月26日付 ファルゲンのベースになったもの。これと上の2点、右の1点はグランダストの候補として描かれたものだ。

▶86年7月26日付

▲86年7月26日付

初期デザイン

―メカニクス―

企画の時点でロボットメカ＋（プラス）戦闘オートバイという展開が考えられていた。大河原氏、そして鈴木雅久氏の描いたデザインを紹介しよう。

▲86年8月29日付で描かれている装甲オートバイ4点

▲企画初期に描かれた戦闘ポッドのデザイン「キラウェイV型」

▲▼「テッカマン」のブルーアース号を思いおこさせるデザインの宇宙船 この上に3つのタンクをつけてアイダホになった

こちらは作業用ポッド

▲鈴木雅久氏によって描かれた設定アイディア

◀鈴木氏の描いた戦闘バイク二種

テレビ・アニメーション企画案
キャバリアー戦記
グランダスト1（仮題）
企画 製作・（株）日本サンライズ

題名　キャバリアー戦記「グランダスト1」
分類　SFロボット戦闘アクション青春ドラマ
対象　小学校高学年から中・高校生
原案　矢立　肇
原作　鈴木良武
脚本　五武冬史
監督　未　定
メカニカルデザイン　大河原邦男
キャラクターデザイン　未　定
企画・制作　（株）日本サンライズ

企画にあたって

日本サンライズが「ガンダム」を筆頭に得手とする、リアルSFドラマとは――
地球・人間・戦争・宇宙・青春
これら全ての要素を盛込んだドラマだ。
オリジナル・リアル・アニメが不足している今、それを世に送り出すのが一番必要とされる。
リアルな臨場感は視る者をドラマに魅き込み、はっきりとした思想に基づいた戦いは、本物の歴史を作り上げる。
○人間対人間の戦い――常に戦争とは、人が生んで来た闘争のドラマ
○人類と地球の運命を見詰める――我々が常に遠く心の底で考えている行く末
○現代に根ざした兵器思想に基く戦い――デザイン、性能によるリアル・ミリタリー
そして、この作品の為の新しいポイント
「青春とは？」
この言い古された響きでありながら、若者にとって最大の問題。
若者が、常に、そして一番望んでいる〝意義のある生き方〟を、自信を持ってドラマとして提示出来るのが当作品である。
これがプラモデル等をはじめとする、〝リアル・モデル〟の復権につながる事は言うまでもない。
以上の事が、当作品を企画した意図ともいえる。

物語の舞台設定

西暦2080年――。
その頃、太陽系に進出を開始した人類は、宇宙空間、コロニー、月面都市、他惑星都市と恒久的植民地を築き、第一期の宇宙文明時代を迎えようとしていた……が、同時に人類と地球は最大の危機を迎えることになった。
太陽系を巻込んだ宇宙大戦の勃発であった。
月面に建設された植民都市・ダイナポリスが、地球の一切の干渉を断ち宇宙国家として独立。地球に対して叛旗を翻すと同時に、あわせて、地球の統一を目指して開戦の火蓋を切ったのであった。
そもそも、植民都市・ダイナポリスとは、来るるべき宇宙時代に備えて、地球の各国が自国のより秀れた科学者を選抜して送りこんだ共同の研究都市であった。
利益が上がらぬ当初は、当事者各国とも事を構えることなく、穏やかな関係が続いていた。
だが、月面開拓が進み、このダイナポリスが莫大な利潤と豊富な資源を手にするようになると、その分配をめぐって地球の当事者各国の間で、激しい衝突と抗争がおきるようになった。
この宇宙の権益をめぐった地球の抗争は、月面基地、火星基地、スペースコロニーまで巻込み、一触即発の緊張状態を生みだすに至った。
宇宙の心ある者たちは、この事態を憂慮、月面基地の有力者たちは、この状態を収拾するには、月面基地・ダイナポリスが宇宙国家として独立し、地球の干渉を断ち切るしかないと決断するに至ったのであった。そして、その独立戦争のための準備が密かに行われだした。
だが、この時ダイナポリスの中で思いがけないことが起きた。
政変劇であった。
それまでヘゲモニー（主導権）をとっていた独立派のグループが、狂信的で急進派のグループに壊滅させられ、ヘゲモニーを奪われたのだった。
狂信的急進派のリーダーは、超国家科学主義を唱えるモッソルー博士と、後に自ら元帥と名乗ることになるギルトート大佐であった。
二人が唱える超国家科学主義とは、科学的な真理こそ絶対であるとして、科学そのものを人間の優位に置く考えであった。
どこに真があるのかわからぬ愚劣な人間に対して、科学は常に真理の法灯を掲げ、無知な人間を闇からひきずりだし、進歩の導き手となってきた――故に人類は、科学の進歩にあわせて進歩しなければならず、そこでこそ地球を代表する生物として、宇宙への進歩も許されるという考えであった。
従って、宇宙の権益をめぐって欲望を剥き出しにして、どろどろと争う人間は論外であった。モッソルー博士の考えに立てば、彼等は抹殺されるなにものでもなかった。それと、科学の発展についていけない者も、人類としての存在価値はなかった。
こうして、モッソルー博士とギルトール元帥の支配することになったダイナポリスでは国家大改造計画がはじまったのであった。バイオテクニロジーも駆使されて、知的レベルの高い国民が誕生するように計画され、合せて、より質の高い宇宙科学、軍事科学が振興され、適さぬ者たちは人工的に淘汰されていった。
そして、ダイナポリスの者たちこそが、これからの宇宙時代、太陽系を代表する生物であると鼓舞され、新時代の主として自意識も高められていったのであった。
その結果、欲望にまみれて生きる地球人たちは、淘汰されるべき劣性の人類でしかなくなってきた。
そしてついに『Xデー』が来た。
ダイナポリス軍は、この日のためにと着々と準備してきた軍事力を行使すると、劣性人類の支配する地球へ向かって怒涛のような進撃を開始したのであった。

（次ページにつづく）

ここに紹介する「企画案」が、『機甲戦記ドラグナー』の原形となったものです。
MAにあたる兵器の名称が重戦車という現用兵器の発展した宇宙兵器といった印象で書かれていること、そしてキャラクターではローズがヒロインで、ケーンにあたる役の素人として設定されていたなどの、設定やキャラクターの配置などにかなりの違いがありますが、実際に『ドラグナー』の設定に至る原形は示されています。この企画案が提出された後にスタッフが正式に決められ、監督である神田武幸氏を中心に作品としての骨格づくり、そして肉づけがされていき『ドラグナー』という作品への形が作られていったのです。

物語

（前ページのつづき）

ウラニウムを蚕食するバクテリア兵器を密かに地球上に散布して、核兵器の使用を不可能にしたダイナポリス軍は、電撃的な速さで地球の連合軍を撃破していった。

権益の抗争にばかり気を奪われていた地球側が、あわてて反攻に転じようとした時は既に遅く、宇宙も地球も七割はダイナポリス軍に押えられ、海洋に、砂漠に、山岳に、ダイナポリス軍の前進基地は着々と建設され、各地ですさまじいばかりのジェノサイドがはじまっていた。

旧来のすべての組織、機構も叩きつぶされ、宇宙人類の母星にふさわしい新生地球の誕生が目指されていたのだった。

この脅威的なダイナポリス軍の快進撃を支えていたのは、モッソルー博士の協力のもとにギルトール元帥が開発し、命名者となった最新型重戦車「MXII—ギルトール（仮）」の活躍に負うところが多かった。

この最新型重戦車の大軍団が地球と宇宙を制圧していったのだった。

それは、それまでの戦車の常識を越えた画期的な開発だった。

潜水艦がミサイルを格納することによって戦略兵器として蘇えったように、ギルトール元帥は宇宙と地球に通用する兵器として、戦車を多面的広域戦術兵器として蘇えらせたのであった。戦車としての設計思想を色濃く残しながら、宇宙空間における活動も考慮にいれたものだった。この戦車軍団に地球も宇宙も見る間に侵攻されていったのである。

旧来の兵器にしがみついていた地球側の連合軍が、この破竹の進撃に耐えられなかったのは当然だった。

こうして、ダイナポリスの戦車軍団の前に地球連合軍は、一歩また一歩と追いつめられていったのである。

〝ラグジット・青葉〟が生れ育ったサンシャインシティは、総人口十万、月と地球の間に多数建設された恒久的なスペースコロニーのひとつであった。

だが、大戦の勃発と同時に人々は一層の安全を求めて地球へ、火星へと次々に脱出。現在は、一万に満たない人口が残るゴーストタウンと化したスペースコロニーになっていた。残った人々は、他に頼るべき人も土地も持たぬ人たちだった。ダイナポリス軍の幻影におびえながら、不安な日々を送っていたのである。

ラグジット・青葉の通うハイスクールも生徒は激減して、数十名の生徒たちが細々と授業を受ける有様だった。ラグジット・青葉が所属する最高学年にいたっては、ラグジットを含めて六人の男子生徒と三人の女生徒しか残っていなかった。この僅かな仲間と共に戦争の影に押しつぶされそうな自分たちを振いたたせて暮らしていたのであった。

だが、遂にある日、戦争は彼等の目前でおきた。

地球連合軍所属の輸送戦艦が一隻、敵哨戒部隊の不意打ちで受けた被害の修復に寄港してきたからだった。

人々は恐れた。艦の寄港を知った敵が、同時にこのコロニーへ攻撃を仕掛けてきたからだった。ラグジットもコロニーの人たちも初めて、目の底に焼付くほど地球と宇宙を戦火にまきこんでいる恐怖の戦術兵器「MXII—ギルトール」のすさまじさを見ることができた。哨戒部隊という小ぶりの勢力ながら、その「MXII—ギルトール」の力を盾に、敵は戦艦に対して果敢に戦いを挑んできたのだった。それに対して輸送戦艦がおくりだしたのは「キャバリアー0型」と呼称がある対抗機であった。

しかし、同じ重戦車タイプでありながらその形態と性能には、かけた時間と金と能力の差があった。「キャバリアー0型」はダイナポリスが開発した「MXII—ギルトール」に対抗すべく、地球連合軍があわてて開発したものであった。しかし、無いよりはましであった。コロニーと、戦艦を守ために2機のキャバリアーが爆弾がわりに自爆して、敵の哨戒部隊とMXII—ギルトールを壊滅させた。

戦艦は敵の本隊が姿を現さぬうちに出港することになった。人々は、ほっと安堵の息をついたが、この時、思いがけないことがおきた。

艦長のギブソン大佐がその職権をもって、戦死した六人の兵士の補充にこのコロニーから六人の若者を徴兵することにしたからだ。

使者がハイスクールで授業を再開したラグジットたちのクラスに現れた。

突然の訪問にラグジットたちは飛びあがらんばかりに驚いた。担任教師のホイットニーは、六人を身をもってかばおうとした。だが使者は非情だった。

適任の若者と大人がすべて徴兵された現在は、その最適任者として六人の少年の世代しか残っていないことを告げたのであった。実際、コロニーには女と子供と年寄りの姿が圧倒的に多かった。使者は、一時間以内に艦に乗船するように命令すると、「君達が乗船しない限り、艦は出港しない。艦が寄港している限り、敵の本隊が現れた場合、今度こそ容赦なくコロニーを攻撃してくるのに違いない。すべては君達の決意にかかっている。」とも、言い残して戻っていった。

六人の慌だしい別れがはじまった。親たちには、寝耳に水の驚きであった。年端もゆかない息子たちにも徴兵が来たということで、涙の別れが待っていた。

離婚して、女手ひとつでラグジットを育ててきた母は、あまりの出来事に茫然となっていた。ラグジットの方は、同級生で恋人のローズ・パテントンとの別れで、彼女からラグジットの子を妊娠していると告げられて吃驚していた。「生むか、生まないか……まだ決めてないの……でも貴方は戦場へ行ってしまう……」

心乱れるラグジットは、自分が出発した後に母に真相を伝えられるようにとローズのことを手紙にしたためて彼女に託し、艦へ向った。

他の五人の少年たちも、ラグジットと同じように自分の人生の荷物をそれぞれの場所に置いて集まってきていた。

だが、驚いたことに集まってきたのは六人の少年たちだけではなかった。

少年たちの担任であるホイットニーが一足先に志願兵として乗船し、艦長にくいさがっていたのだった。

戦うためではなかった。六人の少年の教師として、これからも教えつづけるためであった。生徒たちから〝穴ネズミ〟と呼ばれているホイットニーは、その仇名通りやせて風采のあがらぬ丸眼鏡で神経質そうな男だった。しかし、その人柄は温かく誠実でやさしかった。「私は小心者です。しかし、勇気ある人間として生きようと思っているものです。ですから言わせて下さい。戦いに聖戦というのはありません。どんな戦いでもおろかな戦いなのです。と言って、私にそのおろかな戦いをやめさせる力などありません。しかし、そのおろかな戦いをつづけなければならない子供たちの側にいて、心にあけられた傷を一緒に繕ってやりたいと思ったのです。ですから志願したのです。私をやとって下さい……」

一時間後、この風変わりな教師と六人の少年たちを乗せた戦艦は、親、兄弟、友達、恋人に見送られて、暗い宇宙へ出港していった。そして三時間後、このスペースコロニーは現れたダイナポリス軍の本隊に占領されたのだった。

ラグジットたち六人が乗船した輸送戦艦「ゴールドアロー」は、輸送任務と戦闘能力を一緒にした通常の艦隊編成からは考えられない

ような船だった。
それは、地球連合軍の戦力のなさを物語るひとつのあらわれであった。輸送専断と護衛艦隊の編成を組むことの出来ない地球連合軍の中枢部が、宇宙の各拠点で必死の戦闘を続けている友軍に、物資の補給を続けるために考えついた苦肉の戦艦であった。
自分で自分を守りながら、制宙権を敵に握られている中をレジスタンスの基地へ物資を補給し、あるいは孤塁となった宇宙基地から味方を脱出させ、あるいは要人を救出し、あるいは特命をおびたエージェントを敵の占領地区へ潜入させ……と、広大な宇宙を一匹狼さながら敵の警戒網をくぐりぬけて作戦行動を展開していたのだった。
今度の場合もそれは同じで、ゴールドアローはアステロイドベルトへ逃げこんだダイナポリスの科学者を収容すべく向かっていたのである。
そのダイナポリスの科学者は、モッソルー博士のライバルで政変の際、粛正された敵対グループの生き残りであった。ギルトールに匹敵する新型戦車の開発計画をもっていたところから、殺されることもなく生き残っていたのだった。
しかし、モッソルー博士に従うことをいさぎよいとしない科学者は、アステロイドベルトへ逃亡、地球連合軍に亡命してきたいと密かに連絡してきたのだった。
重戦車開発では、まったく遅れをとっていた地球連合軍は願ってもないことと、その逃亡先であるアステロイドベルトへ向かっていたのであった。
一方、その情報をキャッチしたダイナポリス側も、その新型戦車の開発計画が地球側に渡るのをおそれて追撃していたのだった。
追撃隊の指揮官は、ダイナポリス軍の中でも一、二と言われている若手の将校マイヨ・プラートであった。少年期よりエリートとして育てられ、ダイナポリスが誇る俊英であった。モッソルー博士の理想を見事に具現したような将校であった。
だが、追っている科学者はリング・プラートと言ってこの将校の父親であった。己れの輝くような経歴についた大きな汚点……その汚点をそそぐべく追跡していたのであったが、その前に立ちふさがってきたのが一兵卒にすぎないラグジットたちであった。
雑魚として、まったく無視するマイヨ・プラート。しかしながら、ラグジットたちは戦うたびにしぶとさをまし、強くなってくる。しかも、自分とは異なる価値観の中に生きている……。
マイヨ・プラートには、だんだんと気になる存在となり、いつしかライバルとして宇宙に地球に壮絶な戦いを繰広げることになっていった——

物語の基本的展開

この作品は、三つの大きな構想を据えて展開されます。
一つは、この物語の舞台となる戦闘空間、地球を中心とした宇宙空間に展開される様々な物語です。つまり、様々な物語が宇宙狭しと繰広げられるなかから、今回表題となった——キャバリアー戦記・グランダスト1——の物語をピックアップして展開するという方法をとります。キャバリアーとは、地球連合軍が開発した重戦車の総称です。
つまり本作品は、その重戦車を中心にした戦記物語ということです。従って、この物語の背景には書かれざる戦記物語が多数あるということです。
二つ目は、キャバリアー戦記の中でも『グランダスト1』というタイプの重戦車の戦記であるということです。やはりキャバリアー戦記の中にも「カイザー空挺部隊」とか「ブルーファイアー作戦」とか「キャラウェイII」とか、背後には多数の戦記があるのです。そして、これらの多数の戦いの物語は——キャバリアー戦記・何々の巻——として必要に応じて陽の目を見るかもしれません。
本作品では、このキャバリアーの中の『グランダスト1』の開発から、空中分解、改良と人の手と戦闘経験をくわえられて遂に主力の戦闘兵器にまで成長していく過程と、そこに展開される作戦の二つを縦糸にして物語が繰広げられていきます。
三つ目は、キャバリアーの『グランダスト1』にからみ、そして宇宙に散っていった六人の若者と教師の物語を横糸に置いてあることです。物語は、一つ目の舞台設定もさることながら二つ目と三つ目を主軸に展開されていくのです。

初期デザイン—キャラクター①—

この「企画案」段階での登場人物のデザインを紹介します。

ラグジット・青葉

モッソルー博士

ロイ・ギブソン中佐

メカ設定

＊グランダスト1＊
キャバリアーの中で、初めて本格的に開発された対MXII―ギルトール用の重戦車。
開発者は、ダイナポリスから地球連合軍へ亡命してきたプラート博士。後のキャバリアーの基本タイプとなる重戦車で、このタイプから枝別れをしてキャバリアー「何々型」となっていく。地球連合軍が初期に開発したキャバリアーは、『グランダスト1』にくらべたら一級も二級も下の代物である。
物語では、この開発されたグランダスト1の改良、成長を縦糸に置いていくが、人材、資財、時間と、すべてに渡って乏しい地球連合軍では、実戦が即テスト飛行というかたちで投入した為に、敵との戦闘中はおろか、戦闘前に事故の犠牲となる者があとをたたなかった。敵に殺されるか、味方の戦車で事故死するかという、ギリギリの状況の中で若者たちは戦ってゆき『グランダスト1』は、その若者たちの血にあがなわれて主力兵器となっていったのである。

＊輸送戦艦ゴールドアロー＊
自らを護りながら物資を輸送し、作戦行動をおこすという独立部隊。
劣勢の中の地球連合軍が思いついた苦肉の方法。
主人公たちは、この戦艦を護り、その作戦行動をたすけるために戦い、散っていったのである。主人公たちにとってこの戦艦は、ひとつの社会の縮図で、そこには様々な人生が描かれるのである。
本作品は、この戦艦が後の『グランダスト1』の開発の鍵を握る亡命科学者プラート博士を救出に向かう作戦行動をとっていることころから展開されていく。

＊MXII―ギルトール＊
ダイナポリスが長年にわたって開発してきた重戦車。
この重戦車の登場によって、それまでの戦車の概念が大きく変化し、単なる戦術兵器から大きく広域戦術兵器にかわった。

登場キャラクター

＊ラグジット・青葉（17才）
スペースコロニー・サンシャインの住人。ハイスクールの高学年。日本人の母とアメリカ人の父を持つ。しかし、両親は子供の時に離婚。父は地球へ帰り、以後、民生局に勤める母に育てられて大きくなる。兄弟はなし。少しかげりがあるが、性格は明るい。
同級生のローズ・パテントンとは恋人同士。寄港した輸送戦艦ゴールドアローの一兵士として召集され、同級生六人と乗り組む。
この時戦局は、地球連合軍に不利で、敗北数歩前の劣勢で、青年と壮年の男はほとんど召集され、ラグジットの年代しか残っていなかった。
この召集で乗船の時、ローズが自分の子供を身ごもっていることを聞かされ、どうしてよいか結論を出さないままに乗船する。
人の生命が、すさまじい勢いで消耗されるこの戦いの時代に、ローズのお腹の子をどうするかが重い課題として残る。

＊ローズ・パテントン（17才）
ラグジットの恋人。
お腹の子をどうしていいか分からぬままにラグジットを見送り、ぐずぐずしているうちに、今度はサンシャインが敵の占領地となる。住人たちは劣勢人種として、身分証明書を持たされ、ゲートに集められて生活をさせられる。
そして劣勢人種の妊娠出産は禁止。それを犯す者は母子もろとも薬殺される。
そのような状況の中で、母性に目覚めはじめたローズは、生命をかけて子供を産もうとしていく。

＊オセアノ・タップ（17才）
ラグジットの同級生。召集を受けた6人の中の一人。父は既に戦死。病身の母と幼い妹を抱え、一家の柱となって頑張ってきたが、召集されたことで一家を放り出した形になり、すごく気にしている。実に辛抱強い男で温厚。仲間のうちでは、一番精神的に大人である。

初期デザイン MA②

ここに紹介するデザインは「企画案」段階で大河原氏が描いたものです

グランダスト1

MX－Ⅱ・ギルトール

MX－Ⅰ・ギルトール

キャバリアー0

MX－Ⅰ・ギルトール

グランダスト2

MX－Ⅲ・ギルトール

＊ピット・サーミン（17才）
調子が良くて、おっちょこちょいで、お人好。やはりラグジットの同級生の一人。スポーツが好きでコンピュータに強い。年老いた享楽的な両親がいる。この両親は子供のまま年をとったような人で、わがままで自分勝手。楽が出来るなら子供も敵に売渡しかねなく、ビットの足を引張ってばかりいる。

＊キルト・コルソン（17才）
いわゆる好漢で、はっきりと物を言う性格。剛直。地球に留学し、そのまま消息を絶った父を母と共に、コロニーで待っていた。
この行方不明になっていた父は、ダイナポリス側の将軍として姿を現わし、このキルトと相まみえることになる。

＊シュン・ヤークン（17才）
思索的で物静かな少年。といって、軟弱ではない。静かな行動派。両親が以前のダイナポリス出身。従って、敵軍に従兄たちがいて彼等と戦線で顔を合せることになる。

＊ライト・ニューマン（17才）
ルーズで楽天家のくせに、変に細かな神経を持つという妙な性格。この時代の宇宙にはめずらしく大家族主義の家に育つ。家族が自慢。コロニーに残った家族は、敵の厳しい監視の中で闇商人としてゲートの者たちの力となるのでつかまりはしないかと年中心配している。
指揮官からは、目の仇きにされてしごかれる。

＊ダン・ホイットニー（30才）
六人の担任教師。歴史、数学、詩学の先生。独身。生徒たちから"穴ネズミ"と仇名をつけられるように、見かけはいかにも神経質そうでおどおどし、服もやぼったく、全然風采が上がらない。しかし、生徒をおもうことは宇宙一で、その人柄は温く誠実で思いやり深く、17才で召集された少年たちの側にいて、少しでも学問を続けられるようにと戦艦ゴールドアローに志願兵として乗艦し、六人の少年たちと共に散っていく。

＊ロイ・ギブソン中佐（50才）
輸送戦艦ゴールドアローの艦長。六人の少年たちは、このギブソン中佐が艦長の権限を行使して召集した。鼻つまみの艦長で、人の生命よりメカの方を大事に思う。カンシャク持ちで気まぐれ屋で、すぐ大声をあげる。

＊ケニー・ダンカン大尉（30才）
ゴールドアローを護衛するキャバリアー部隊の隊長。冷静でクール、峻厳な性格で安易な妥協は許さない。それが結局は一人一人の生命をながらえるための方法となるからで、その試練を乗越えられた部下は可愛がる。
艦長との対立は公然の秘密。

＊ガイ・ハッカー兵曹長（25才）
六人の少年の教育係で、兄貴分のような人。口も悪いが、心は温かい。そして勇猛果敢。いかにも下士官といったタイプ。

敵側の登場キャラクター

＊マイヨ・プラート少尉（20才）
ダイナポリス幼年学校から超国家科学主義の教育を受け、常に優秀な成績で成長してきたバリバリのエリート。
大人を大人とも思わず、弱者に対する哀れみもない。切り捨てる存在と思っている。
大人を平然と「お前は……」と自分の目下扱いにする。

このような特殊教育を受けた少年たちは、すべて特別扱いを受け、ダイナポリスの最高指導者モッソルー博士の直属の子弟として保護を受けている。

＊ギルトール元帥（55才）
モッソルー博士の右腕で、超国家科学主義推進の一人。重戦車の概念をかえ、革命的ともいえるMXII—ギルトールを開発して、ダイナポリスの軍事力を高めた。
好戦的野心家で、権力欲にこりかたまり、いつかはモッソルーにとってかわろうとしている。

（次ページにつづく）

初期デザイン—キャラクター②—

ケニー・ダンカン
マイヨ・プラート
プラクティーズ（少年隊）
ローズ・パテントン
ハウゼン船長

（前ページのつづき）

＊モッソルー博士（57才）

科学者であり政治家。超国家科学主義の推進者。狂信的な性格の持主で科学絶対主義者。

科学を信奉し、絶大なる信頼を寄手いる。科学の進歩は絶対のもので、その進歩に追いつけないのは、その人類が悪いという信念を持っている。

＊リング・プラート（50才）

ダイナボリス科学総省の開発部長であったが、モッソルーとの主導権争いに破れ、抹殺されそうになり、家族の者と月面を脱出、最も安全なアステロイドベルトに逃げ込み、地球連合軍に保護を求めた。その際、見返りとして用意したのが、新重戦車の開発プランであった。

しかし、追手である息子、マイヨ・プラートと対決後、自殺する。

初期デザイン―キャラクター③―

ライト・ニューマン

オセアノ・タップ

女性キャラクター

後にダイアンとリンダに至ったデザイン

ブルーファイヤーのクルー

入国管理センターの所長

亜空戦記 グランダルス（仮）

（株）日本サンライズ新番組企画書

スタッフ

監督　神田武幸
原作　矢立　肇
シリーズ構成　五武冬史
脚本　五武冬史
　　　星山博之
　　　松崎健一
　　　平野靖士
キャラクターデザイン　大貫健一
メカニカルデザイン　大河原邦男
美術　中村光毅
演出　岡田有章
　　　鹿島典夫
　　　浜津　守
　　　篠　幸裕
作画監督　福田満夫
　　　塩山紀生
　　　中村旭良
　　　遠藤裕一
音楽　（未定）
制作　名古屋テレビ
　　　創通エージェンシー
　　　日本サンライズ

構成

（仮）『グランダルス』は「機動戦士ガンダム」世界を構築している骨法と構図を継承した世界です。つまり、対立勢力、人物配置、メカ・コンセプト、ドラマ……と、ガンダムが描いた宇宙世紀ものとしての明確な構図をきっちりと受けつないでいるということです。

［1］時代性

特色としては、次のことが挙げられます。

「ガンダム」世界を宇宙世紀ものとして、歴史の中に立脚した物語とするなら、その骨法と構図を引継いだ（仮）『グランダルス』は、現代という時代性に合せた大河ドラマとして風格を備えた作品である。

それは主人公として設定された三人の性格に見られ、登場して来るメカに、大いにそれを感ずることが出来る。

ロボットを除いて、登場するメカはすべて近未来のもので、それは現在地球上で稼働しているものの延長線上にある。

［2］ガンダム精神の継承

すでに申し述べてあるように、ガンダムのヒット要因となったエッセンス、構図、世界観……等々を受け継ぎ、現在の時代に相応したガンダムを描こうとしている。

当然、英雄物語であり少年たちの成長物語であり、対決ものである。

［3］ロボットアニメの復活とガンダムの超越を目指す

我々制作者は、古い皮袋に新しい酒を注ぎこもうとしているのではなく、新しい皮袋に、風格あるモルトを原酒にした酒を注ぎ込もうとしているのである。

時代やメカをよりリアルに設定したのはそのためであり、ガンダムのように「宇宙世紀」とポンと時間の流れを飛びこえた時代ではない。

物語の舞台は名実共に2080年なのである。

空母も原潜も戦闘機も登場します。

ヨーロッパは崩壊し、中国が工業国家として世界をリードしている時代です……。

この肌身に迫る現実感の中で、物語を展開

しようとしているのが、この（仮）『グランダルス』です。　その切迫した熱気が、TVの前から去った多くのアニメファンを再び呼び戻すことが出来る方法のひとつではないかと信じている次第です。

ストーリー

ケーン・ワカバは、16才。スペースコロニー〝アルカード〟の宇宙飛行士養成所（スペースアカデミー）の落ちこぼれの生徒である。友が戦場へ去ってがらんとなった寮で、同じ落ちこぼれ仲間のライト・ニューマン、タップ・オセアノと3人で、大戦の行方を案じていた。

自ら兵士として戦う気など露ほどどももたぬ3人だったが、ある日、コロニーの外で起きた思いがけぬ事件に巻きこまれ、戦いの渦の中へ引きずられていくことになった。

事件は、コロニーへ逃げこもうとした地球側の難民輸送船の一隻が、それを追ってきた統一帝国の巡洋艦に粉砕されるということから始まった。

ケーンたち3人は、この粉砕された輸送船の難民たちの救助に手をかすことになるが、その現場へ向かう途中、強引に上陸した統一帝国の上陸部隊に遭遇、彼等の攻撃場所へ運ばれることになった。

上陸部隊が狙ったのは、コロニーの空港へ逃げこんだもう一隻の難民輸送船だった。

この難民輸送というのは、実は地球側の偽装船で、船倉には統一帝国で秘密兵器として開発され、奪われた最新型のロボットが3機、格納されていたのだった。

統一帝国は、それを粉砕するために、上陸部隊を送り込んで来たのだった。

その攻撃に巻きこまれた3人は、逃げて逃げて、逃げ廻っているうちに、輸送船の3機のロボットの中へ逃げ込み、思いがけず戦う羽目になってしまったのだった。

ところがこのロボットは、パイロットが一度登録されると、そのパイロットでなければ絶対に操縦出来ないというシステムで、しかもその解除装置は地球の連合軍本部まで行かなければないという具合になっている。

従って主人公たち3人は、不承不承ロボットに搭乗、戦いながら地球へ向かうが、その過程を通じて戦いに目覚めていくということになる。

登場人物

★ケーン・ワカバ（16才、出身：日本）

ガンダムにおけるアムロの役にあたるが、性格はがらりと正反対。

心優しく、感情の振幅が大きい硬派。戦いを経ることによって男として成長していく。

★タップ・オセアノ（16才、出身：アメリカ）

ケーンの同級生

努力家の苦労人。泣き事を言ったことがなく、明るく陽気にふるまおうとしている。

★ライト・ニューマン（17才、出身：イギリス）

ケーンの同級生。

精神的には2人より落着きがあって兄貴格。つねに理性をもって事にあたる。

★マイヨ・プラート（24才、出身：ソビエト・ロシア）

ガンダムのシャアにあたる。

統一帝国（主人公たちの敵）のエースパイロット。

高貴で純粋で行動的で理知的で、まさに申し分のない敵方の騎士である。

★リンダ・プラート（16才、出身：ソビエト・ロシア）

マイヨの妹。

最初は自分の身分をかくしてケーン側にいる。そのうちに、ケーンの恋人になる。

美しく多感な乙女。献身的で、自分の心に素直に生きようとする。本能的に人の資質の違いを感ずる心をもっている。

（次ページにつづく）

初期デザイン　キャラクター④

タップ・オセアノ

ライト・ニューマン

ケーン・ワカバ

（前ページのつづき）

★ダイアン・ランス（22才、出身：アメリカ）
心やさしく温かく、聡明でしっかりかた、気質の美人教師。
難民の子供たちの教師。

★ローズ・パテントン（16才、出身：ムーン・ベース）
難民。
ダイアンの手伝いをする明るく快活な美少女。

★ダン・フォレスター（19才、出身：ムーン・ベース）
マイヨがあずかっている士官学校の生徒。
実習訓練として主人公たちと当たる。エリート意識が強い。

★マーク・ユアサ（19才、出身：ムーン・ベース）
同じくマイヨがあずかっている士官学校の生徒。
実習訓練として主人公達と当たる。頭脳派のエリートくささがある。

★ビル・オバノン（19才、出身：ムーン・ベース）
マイヨがあずかる士官学校の生徒。
小マイヨのような感じ。天才肌の野生派。
主人公たちと当たる。

※ダン、マーク、ビルの3人が当面の主人公たちの敵で、この3人を越えなければマイヨ・プラートの相手にはなれない。

○1号機　主人公ケーン・ワカバ搭乗機
接近・格闘戦用メタル・アーマー。ライフル、ビーム・ソード、シールド、手投げ弾、アザルト・ナイフ等、多種多様な兵器を使い、格闘戦の主役として活躍する。強力なレール・ガンを装備するキャバリアーを装着することで、長距離・長時間の戦闘能力を強化できる。
全高・17・6m

初期デザイン―キャラクター⑤―

ダイアン・ランス

リンダ・プラート

ローズ・パテントン

ベン・ルーニー

アオイ・ワカバ（ケーンの母）

ソウル・ジルセット

○2号機　タップ・オセアノ搭乗機

長距離支援戦用メタル・アーマー。1号機に比べ機動性が劣るが、装甲が厚く、背部に装備された強力な二連装レール・キャノンを使い、離れたところから敵を攻撃するのが主な任務。更に、強力な装甲により格闘戦にも威力を発揮できる。全高・16・8m

○3号機　ライト・ニューマン搭乗機

電子戦用メタル・アーマー。3機中で最も速いスピードで飛行し、頭部に備えた円板状の高性能長距離レーダーを使い偵察索敵や、搭載しているスーパー・コンピューターで敵のコンピューターをも自在に操り、電子戦網を撹乱することが主な任務で、1、2号機に情報・戦術を提供し支援する。全高・18・2m

メインスタッフが決定した後に「グランダスト1企画案」を叩き台にして検討が繰りかえされ、この「企画書」にまとめられたのです。

「ガンダム」の世界観をベースに物語を展開されることが色濃くうちだされている。そして「企画案」に書かれていたキャラクターたちの配置や性格も具体的な設定となって作りなおされ、ほぼ「ドラグナー」の作品世界が完成しています。

タイトルはこの後に「ドラスデン」、そして「スティルバー」と二転三転し、最終的に「ドラグナー」に決定してのです。

しかし、「ガンダム」の世界観を素材として製作が開始された「ドラグナー」は常に新しい『ロボットアクション』の可能性を求め「ガンダム」のリメイクではなく、いかに「ドラグナー」という作品を作り挙げていくか、その作業は製作をしながら作り上げられていっているのです。

「ドラグナー」という作品はこの「企画書」から初まり、そして現在放映している作品へと至ったのです。

初期デザイン ―MA③―

ここではカラーページで紹介できなかったデザインなどを紹介します

ドラグナー2型

ドラグナー1型

キャバリアー0

▼D−1のベースデザインとなった「SPTグレイドス」として描かれていたデザイン

ガンドーラ・ゲルドーラ・ゲルドーラ

◀決定稿ともとのデザインが違う

▲鈴木雅久氏が描いたもの

各話ストーリー & スタッフリスト

メインスタッフ

企画　サンライズ
原案　矢立　肇
シリーズ構成　五武冬史
音楽　渡辺俊幸
キャラクターデザイン　大貫健一
メカデザイン　大河原邦男
美術　中村光毅／岡田有章
音響　藤野貞義
撮影　酒井幸徳
監督　神田武幸
プロデューサー　神谷寿一／今井　慎
稲垣光繁
吉井孝幸
制作　Nagoya TV
創通エージェンシー
サンライズ
色彩設定　前とも子
色彩設定補佐　山崎恭子
特殊効果　紫田睦子／山本公／磯野松子
コスチュームデザイン協力　鈴木雅久
OPアニメーション　大張正己
EDアニメーション　榎本明広
ゲストキャラデザイン　服部憲知／榎本明広
遠藤裕一／芦田豊雄とまんどりるくらぶ
タイトル　マキプロダクション／安食光弘
撮影　旭プロダクション／桶田一展
梅田俊之／長谷川洋一／鈴川文弘
ACC谷原スタジオ／トゥインクル
スタジオぎゃろっぷ／はだしぷろ
小堤勝哉／山本喜信／西川城作／清水泰宏
トランス・アーツ／森川浩昭
熊谷考広／関戸宏樹／宏樹田淵　将
編集　布施由美子（井上編集室）
音響制作　千田啓子
効果　依田安文
調整　依田章良
録音　整音スタジオ
現像　東京現像所
広報制作　村田　光
制作デスク　富田民幸
制作デスク補　吉沢文邦
文芸設定　鎌田秀美
設定制作　井上幸一／松永良和

第1話 炎の日

脚本／五武冬史　作画監督／遠藤裕一
絵コンテ／横山裕一郎　演出／篠　幸裕

ギガノスの巡洋艦フンボルトに追われる難民船、アイダホとホロベツが、スペースコロニーのアルカードに入国を求めてきた。D兵器を隠しもつアイダホは入港するが、ホロベツはフンボルトの攻撃により撃沈される。

アルカードの宇宙アカデミーの生徒であるケーン、タップ、ライトは、アカデミーの装置でその模様を傍受し、港へ向かうが、途中ギガノスのスパイから、謎のフロッピーディスクを手渡される。

ギガノスの戦闘バイクをやり過ごしたケーンたちがたどりついたアイダホの格納庫の中には、D兵器が3機格納されていた。

スパイから受け取ったディスクを使い、ケーンたちはドラグナーを始動させギガノス軍を退けるが、アルカードはマスドライバーに直撃される。

第2話 廃墟の死闘

脚本／星山博之　作画監督／中村旭良
絵コンテ／鹿島典夫　演出／鹿島典夫

ケーンたちを救助したアイダホの軍人たちは、秘密兵器のドラグナーを操縦し、ギガノスのメタルアーマーを退けたのが彼ら3人の少年であることを知り驚く。しかも、パイロットとして登録されてしまったケーンたち以外に、ドラグナーを動かすことはできないのだった。

3人は監禁室に閉じ込められるが、アルカードで入国監理管をしていた母親が心配なケーンはそこを抜け出し、ケーンを気遣うタップ、ライトも同行する。

ドラグナーを持ち出しアルカードへ向ったケーンたちの前に、D兵器捜索のために出ていた敵MA（メタルアーマー）があらわれる。

ケーンたちは無我夢中でこれを撃破、その勢いでフンボルトをも沈めてしまったのだった。

第3話 ギガノスの蒼き鷹

脚本／松崎健一　作画監督／山田きさらか
絵コンテ／谷田部勝義　演出／福田満夫

ケーンたちは、連合軍の三等空士として召集されてしまったことを悲観するが、難民の中にいる少女たち、リンダやローズたちと出合い、一種のやり甲斐も感じていた。

本来D兵器のパイロットになるはずだったダグラスは、3人に戦闘を教えこむ。その模擬戦闘訓練のさなか、ドラグナー追撃の命を受けたギガノス軍のエースパイロット、マイヨ・プラートが駆るファルゲンとプラクティーズのゲルフが襲いかかってきた。

マイヨは、ドラグナーのパイロットがド素人であることに気付き、ことさらの攻撃を加える必要はないと判断するが、手柄をあせるプラクティーズの3人が警戒を怠ったため、連合軍の援軍の接近を許してしまい、撤退せざるを得なくなる。そしてケーンたちは命拾いをした。

第4話 男たちの戦場

脚本／五武冬史　作画監督／服部憲知
絵コンテ／浜津　守　演出／浜津　守

アイダホは、連合軍の護衛艦隊と合流し、地球へ向っていた。
艦隊司令官のホイットマンは、ドラグナーのパイロットが、ケーンたち3人の少年と知って、あ然とするのだった。そこへ、マイヨが攻撃してきた。
連合軍は、大きな被害を出しながらも、戦闘ポッド部隊でなんとか退けるが、その様子を見ていたケーンたちは、彼らの戦いぶりに驚嘆する。そして、帰艦したギニール少尉は戦う男の厳しさをケーンたちに語り、彼の妹への贈り物を託す。
撤退したかに見えたマイヨは、一人ファルゲンでアイダホを襲う。圧倒されるギニールを見兼ねたケーンたちは命令を無視し出撃するが、ギニールはケーンたちを諭し、宇宙に散っていった。

第5話 誓いの出撃

脚本／星山博之　作画監督／松本　清
絵コンテ／高松信司　演出／棚沢　隆

地球を目指すアイダホだったが、収容されている難民たちは、医薬品や食料もままならず、決して快適な生活を送ってはいなかった。病人の看護や、赤ん坊の世話をしているリンダたちを見兼ねたケーンとタップは一計を案じ、倉庫に侵入し、薬や食品を持ち出し、難民たちに配布する。それに対する礼としてか、リンダはケーンにブレスレットを、ローズはタップにブローチを手渡すのだった。
状況を打開するため、連合軍は敵に仕掛ける。入れ違いにアイダホを襲うマイヨたちだったが、自軍が襲撃を受けたと知るや引き返す。
一方、はりきるケーンとタップは、隊長の命令を聞かず敵艦クラビウスに突入し、これを沈めるが、ドラグナーは3機とも吹き飛ばされる。

第6話 戦士への試練

脚本／松崎健一　作画監督／遠藤裕一
絵コンテ／菊池一仁　演出／篠　幸裕

爆発に巻き込まれ、何もできないまま宇宙を漂流するドラグナー3機は、宇宙ステーションを発見した。酸素の残りも少なく、絶体絶命のケーンたちは、最後の力でそのステーションを目指す。
目覚めたケーンたちは、廃棄されたこのステーションに、輸送艦の修理のため立ち寄っていたギガノス軍のチェホフ中尉に捕えられていた。
D兵器の奪回により出世を思いついたチェホフは、3人にD兵器の整備をさせようとして逆にD－3の操従席に閉じこめられる。チェホフの艦で脱出しようとする3人だったが、経験で勝るチェホフはその裏をかき、襲いかかる。しかし、3人のチームワークとケーンのしつこさにチェホフは根負けし、休戦を申し出た。

第7話 さらばチェホフ

脚本／五武冬史　作画監督／中村旭良
絵コンテ／山崎和男　演出／日高政光

ケーンたちは、それとなく戦士としての心得を教えながら接するチェホフに、しだいに親しみを覚えていった。
食事の最中もそれは続いたが、プラクティーズがやってきたことで休戦は終り、チェホフは3人を縛りあげるが、プラクティーズに従わず、自分が連行すると主張したため、プラクティーズに射たれてしまう。
ケーンたちは、チェホフの最後の力で解放される。プラクティーズのやり方に怒るケーンたちは、チェホフの仇討ちのため、チェホフから授かった心得に従い、プラクティーズを翻弄し、ついにはゲルフをも撃破する。
復讐を誓って脱出するプラクティーズの3人。ケーンたちはチェホフを宇宙に送り出して、アイダホの救出に向かう。

第8話 捕虜奪回作戦 前編

脚本／星山博之　作画監督／山田きさらか 絵コンテ／鹿島典夫 演出／福田満夫

敵に捕えられたアイダホを救出するため、チェホフの輸送艦に乗り込み、ギガノスの中継基地へ向かうケーンたちだったが、輸送艦がギガノスのものであったため、連合軍の戦闘機の攻撃を受けてしまう。それを逆手に取って、敵基地へ逃げ込むように見せかけ、ケーンたちは潜入に成功する。
ライトが、D－3により、基地の情報を探りつつ通信系統を混乱させ、ケーンとタップはギガノス兵に変装し、リンダたちを捜す。
難民の中に妹リンダを見つけたマイヨは引き止めようとするが、リンダはそれを拒否する。一旦解放されたリンダはケーンたちと会い、難民たちの現状を説明し、ケーンとタップは、敵戦闘バイクで捕虜輸送船を襲撃し、収容所送りを防害した後、難民の中にまぎれこんだ。

第9話 捕虜奪回作戦 後編

脚本／平野靖士　作画監督／松本　清
絵コンテ／川瀬敏文　演出／棚沢　隆

D－3を使い、ギガノスの中継基地のメインコンピューターの侵入に成功したライトは、基地が連合軍の大艦隊に包囲されたという偽情報を流すとともに、基地内を混乱させるため、連絡系統を操作し、難民をアイダホに移動させる指令を出す。
難民たちと共にアイダホに向かうケーンとタップだったが、敵の兵に見つかり、拷問されてしまう。
一方、なかなか動き出さない基地に対し、ライトは全軍出撃の指令を出す。その機に乗じ、リンダの機転で難民たちはアイダホに乗り込み、脱出。ケーンたちも基地の弾薬庫に時限装置を仕掛け、ドラグナーでアイダホの後を追う。
マイヨが　追いすがるが、基地が爆発。脱出は成功する。

第10話 体あたりの防戦

脚本／星山博之　作画監督／服部憲知
絵コント／高松信司　演出／杉島邦久

中継基地から脱出したアイダホは地球を目指すが、司令本部からは、援軍が送れない旨の通信があった。ケーンたちは、地球へ帰還するためにやる気を出し、ダグラスから戦闘のレクチャーを受けるが、肺炎で倒れたローズを気遣うタップはそんな気になれなかった。
マイヨはプラクティーズを引き連れアイダホを襲撃するが、タップのD－2なしの戦いでケーンたちは劣勢を強いられるが、ダグラスの作戦に従い、キャバリアーを犠牲にしてファルゲンを破り、マイヨたちを退ける。しかし、息つく暇もなく、アイダホの行く手には、ギガノスの衛星軌道軍が立ち塞がる。
ローズの回復を見届けたタップは、戦闘に加わらなかったことに気兼ねし、一人で出撃する。

第11話 熱望の大地

脚本／松崎健一　作画監督／遠藤裕一
絵コンテ／滝沢敏文　演出／篠　幸裕

ケーンたちを乗せたアイダホは、地球を目前にしていた。大気圏突入まで、わずかな時間しか残されていない。行く手を阻むギガノスの衛星軌道軍を叩くため一人D－2を駆り出撃したタップは苦戦するが、ケーンとライトの加勢で、先行のMA隊を撃破する。
アイダホは、大気圏突入を目前にしていたが、人員不足のため難民の中から協力者を募った。最初は反発する難民達だったが、リンダが協力を申し出たことにより、次々と協力者が現れた。
作業中のアイダホに、敵の攻撃が開始された。タンクを分離しなければ、アイダホは空中分解してしまう。だが、ケーンたちの働きとリンダの活躍により、アイダホの突入体勢は整い、からくも大気圏突入は成功したのであった。

第12話 それぞれの帰還

脚本／平野靖士　作画監督／山田きさらか　内田順久(メカ)　絵コンテ／ふくだみつお　演出／福田満夫

ケーンたちは、無事地球にたどり着き、連合軍の大型空母アクアポリスに収容された。
ケーン、タップ、ライトの3人は、D兵器と難民たちを無事地球へ送りとどけた英雄として歓待を受ける。
ケーンたち3人は、連合軍のゲドマン少将に、ドラグナーのパイロット登録解除を申し入れ、少将はその願いを聞き入れ、ベルンゲンの司令部へ、3人の登録解除と難民の保護のために向うことにする。しかし、難民の中には、これ以上軍と行動を共にすることを拒否する者もいたため、オーレンス港へ立ち寄ることになる。そこへ、ギガノスの大型哨戒機とガン・ドーラが来襲したが、ケーンたちは、これを撃破した。

第13話 マスドライバー発射指令

脚本／五武冬史　作画監督／中村旭良
絵コンテ／菊池一仁　演出／日高政光

連合軍司令部のあるベルンゲンに着いた大型空母アクアポリス。ケーンたちは、ドラグナーのパイロットから解放されることを喜んでいたが、リンダや難民たちと別れるのが残念だった。
このままリンダたちと別れたくないケーンたちは、ライトの発案でお別れパーティーを企画するが、ケーンたちの思惑をよそに、アイダホの乗組員全員が参加して、パーティーというより、宴会の様相を呈してしまい、ケーンたちのアテは外れたものの、パーティーは盛り上がった。
その頃、ギガノス軍はベルンゲンへ向け、マスドライバーを発射した。パーティーのため郊外にいたケーンたちは助かるが、この攻撃により、司令部は壊滅的な打撃をこうむってしまう。

第14話 新たなる旅立ち

脚本／星山博之　作画監督／服部憲知
絵コンテ／杉島邦久　演出／杉島邦久

連合軍のベルンゲン司令部は、マスドライバーの直撃を受け、ほぼ壊滅してしまう。ドラグナー3機は無事だったが、ケーンたちのパイロット登録解除は不可能となり、ケーンたち3人は、今度は准尉として再召集されることになる。
被災者の救護に当たっていたリンダたちだったが、ドラグナーのパイロットをおびきよせるために、民間人の協力者を装っていたギガノスのスパイに、リンダは捕えられてしまう。ケーンはリンダ救出に向かうが、ちょうど、ゲル・ドーラによる攻撃も始まり、タップとライトは苦戦する。
なんとかスパイからリンダを救い出したケーンは、戦争を終らせるためにという目的をもって闘うとリンダに告げ、再び戦いに身を投じる。

第15話 D艦隊危機一髪

脚本／松崎健一　作画監督／大森英敏
絵コンテ／井内秀治　演出／棚沢　隆

アクアポリスは、ケーンたちとドラグナーを乗せて、アメリカのノーラッドを目指していた。ドラグナー輸送を阻止したいギガノス軍は、グリーンランド基地から、大型巡航魚雷グルーズ・ピートをアクアポリス目掛けて発射した。
ケーンたちは、ドラグナーの空中戦を想定した飛行訓練のため、艦を離れていた。魚雷接近の報を聞いたケーンたちは急ぎ艦に戻るが、ドラグナーの出撃は間に合わず、アクアポリスは被弾し、護衛艦も失なってしまう。
ゲル・ドーラの急襲に、試作の飛行パーツ装備のD－1で対抗し、退けるが、今度はファルゲンとゲルフが襲いかかる。燃料を使い果たし、翼まで斬られ、D－1は危機に陥るが、D－2、D－3と友軍機の援護で、敵を退ける。

METAL ARMOR DRAGONAR

第16話 補給基地の罠

脚本／星山博之　作画監督／遠藤裕一　絵コンテ／篠　幸裕　演出／篠　幸裕

ドラグナー輸送艦隊は、連合軍総司令部がある、北米大陸のノーラッドを目指していた。ネルソン河の補給基地へ向かう途中、ドラグナーはギガノスの偵察機を発見し撃墜するが、その乗組員の一人は、ケーンたちの同窓生のビル・ブライアンだった。

捕虜となったビルに、ケーンたちは投降するよう望むが、故郷をギガノスに占領されている彼は迷っていた。が、偵察機に同乗していたビルの上官がケーンを盾に脱走し、ビルもそれに続き、河へ飛び込む。

ビルは、マイヨたちが占拠した補給基地にたどり着き、かけつけたドラグナーの苦境を見兼ね、ファルゲンを撃つが、逆にマイヨにやられてしまう。それが、ケーンたちを救うことになったが、ビルは命を落としてしまった。

第17話 ノーラッド破壊工作

脚本／五武冬史　作画監督／八幡　正　絵コンテ／ふくだみつお　演出／福田満夫

ケーンたちはノーラッドに到着したが、ドラグナーのデータ保護のためここでは登録解除はできず、代わりに中国の重慶にあるドラグナーの量産基地へ向うことになる。ケーンたちは不満を覚えるが、リンダたちが同行者と知り、逆に大喜びする。

マイヨとダンは、連合軍士官に変装し基地内に潜入、基地の各所に爆弾を仕掛けていたが、ケーンたちに案内され基地内を見学していたダイアンの機転でマイヨの正体が判明し、マイヨたちはドラグナーの格納庫に追いつめられた。だが、銃弾にさらされる兄のマイヨを見兼ねたリンダは耐えきれず、彼が兄であることを告げてしまう。そのスキを突き、マイヨとダンはまんまとノーラッドを脱出することに成功した。

第18話 奇襲の蒼き鷹

脚本／松崎健一　作画監督／山田きさらか、内田順久（メカ）　絵コンテ／杉島邦久　演出／杉島邦久

ケーンたちは、ドラグナーと共に、ドラグナー量産基地がある中国の重慶へ向うことになった。ドラグナーの安全と敵主力を叩くため、本体の他に囮を2隊別ルートで出発させ、ケーンたちはバンクーバーへ向う。

ケーンたちと共に輸送隊に加わったリンダだったが、自分の兄が敵国の軍人であることを知られ、そのことで自分も裏切り者であると思い込み、ジープで飛び出してしまう。

ケーンはダイアンと共にリンダを追い、ライトたちを中継所に向わせる。その時、囮に気付き、本隊をそちらへ向かわせ、ドラグナーに奇襲をかけようとしたファルゲン、ゲルフと遭遇するが、危うくリンダと脱出する。

ケーンたちは、フライトユニットを装備して戦い、マイヨを退ける。

第19話 飛行兵器D

脚本／星山博之　作画監督／中村旭良　絵コンテ／滝沢敏文　演出／日高政光

リンダやローズと共に、ケーンたちは連合軍海軍基地があるバンクーバーから、空母イースヨーに乗り、太平洋へ出港した。途中、ドラグナーのフライトユニット等の性能テストを行いながらドラグナー量産基地がある中国を目指す。

マイヨが兄であることを知られたショックから立ち直ったリンダだったが、ダイアンから、父が生きており、重慶でリンダを待っていると聞き驚く。ローズも両親の消息を知らされ、タップの元にもニューヨークから家族の手紙が届き、一同に明るさが戻る。

一方マイヨは、度重なる失敗の責任を問われ、南方の前線へ更迭されることになった。

マイヨとファルゲンを乗せた輸送機は、プラクティーズの3機のゲルフに見送られて南方へ向かう。

第20話 洋上の再会

脚本／奇数和十八　作画監督／服部憲知　絵コンテ／篠　幸裕　演出／篠　幸裕

空母イースヨーで中国を目指すケーンたちは、ドラグナーのパイロットとして、連日訓練を続けていた。

ある日、連合軍参謀が、D兵器の視察に訪れることになり、出迎えとデモンストレーションを兼ねて、ケーンたちは参謀機を出迎えるが、ハメを外してダグラスたちの肝を冷やさせる。しかし、その参謀が父だと知ったケーンは、母アオイや自分より軍を選んだことに対して反発する。父のジムは、ケーンに母の消息を伝えるが、ケーンは心を開けない。

空母を飛び立ったジムがギガノス軍の襲撃を受けていると聞いてもケーンはかたくなだったが、ベンに一生後悔すると諭され、D−1で出撃、敵機を蹴散らし父を守った。一日も早く戦争を終わらせたいとジムは語り、帰還した。

第21話 敵MA奪取作戦

脚本／鎌田秀美　作画監督／大森英敏　絵コンテ／井内秀治　演出／関田　修

ケーンたちを乗せた空母イースヨーは、太平洋上にあるギガノス軍補給基地近くを航行中、D−3の偵察により20機以上のMAの存在を知り、基地の破壊とMAの奪手を計画する。

MAの操縦ができるため作戦に加えられたケーンたちだったが、後方待機命令を無視して通風口から基地内に侵入し、ギガノス兵に化けて格納庫へ向かう。ダグラスとベンたちも到着し、ケーンたちはMAに乗り込み、ギガノス軍を蹴散らす。

だが、守備隊隊長の乗るダインの攻撃で燃料や弾薬庫が引火し、基地は大爆発を起こし、部隊は命からがら脱出する。結局、入手できた戦利品はMAのスティックひとつだった。そして3人は怒るダグラスから艦内を逃げまわった。

第22話 ギガノス要塞破壊命令

脚本／平野靖士　作画監督／遠藤裕一　絵コンテ／ふくだみつお　演出／福田満夫

ドラグナー輸送艦隊は中国を目指し、津軽海峡を通過しようとするが、そこにはギガノスの要塞が睨みを効かせていた。要塞撃破のためケーンたちは出撃するが、敵フォルグアーマー隊に迎撃され、D－2が損傷する。

D－3で敵のレーダーを攪乱させ危機を脱した3人は、ケーンの指示で、付近のケーンの祖母がいる村に不時着、ケーンは祖母と再会する。

村人たちの協力を得たケーンたちは、放置されていた青函トンネルを使い、ギガノス要塞の弾薬庫付近に爆薬を仕掛ける。

ケーンたちの合図で連合軍艦隊も要塞を攻撃、要塞は大爆発を起こし、海峡通過が可能になった。ケーンは祖母に励まされ、再び旅立つ。

第23話 対決マイヨ・プラート

脚本／五武冬史　作画監督／八幡　正　絵コンテ／谷田部勝義　演出／杉島邦久

南部戦線へ送られていたマイヨは、月でマイヨを信奉する親衛隊の一部が起こした反乱鎮圧のため召還される。それを受ける条件として、マイヨはケーンと接触させることを申し出た。

それを知ったケーンは、上官の命令を振り切り、リンダを連れ、接触場所である京都に向う。

ケーンと対面したマイヨは、自分とは違うもののために戦うというケーンの言葉にとまどう。

その時、接触場所となった寺院に、D兵器パイロットの抹殺を狙う情報将校と部下が乱入し、ケーンとリンダはからくもその場をのがれるが、急襲が目的ではなかったマイヨは2人の脱出を助ける。

第24話 上海大逃走

脚本／奇数和十八　作画監督／山田きさらか、内田順久(メカ)　絵コンテ／井内秀治　演出／日高政光

上海に着いたケーンたちは市内見物に出掛け、御目付役のベンとローズをまき、勝手に中華料理街に繰り出す。

空母に残ったリンダは、ダイアンから父、ラングプラートのことを聞かされる。月住民解放のためにMAを開発したが、独裁に走ったギルトールを倒すため、連合軍に身を投じたというのが真相であったが、リンダは気持ちの整理がつかず、父と会う決心ができない。

一方、リンダを待ちきれぬラング・プラートは単身上海に来て、ギガノスの諜報員に襲われたところをケーンたちに救われる。ラングをリンダの父と知らぬまま、ケーンたちは彼を空母に連れてゆく。

追撃隊のズワイを倒したケーンは、リンダにラングの人柄を伝え、リンダも父に対し、心を開いた。

第25話 D兵器改造計画

脚本／松崎健一　作画監督／中村旭良　絵コンテ／篠　幸裕　演出／篠　幸裕

重慶(チョンチン)に到着したケーンたちは、ドラグナー3機と共に歓迎されるが、軍の主力は既に量産型のドラグーンとプロのパイロットにあることを知る。

除隊すれば多額の報奨金を受け取れると聞いた3人はすかさず除隊を申し出るが、それと同時に、量産が困難なD－3を除いて解体されると聞いたケーンは怒り、再志願して、解体中止命令を得る。

その時、D兵器量産を阻止するため敵が来襲、連合軍はドラグーンで迎撃するが、更に奇襲部隊が現われる。苦戦する連合軍を見かねたケーンは、装甲が不充分のまま出撃、タップとライトもそれに続き、傷つきながらも敵を倒した。そして3人は、リンダたちと共に、ドラグナーによる実戦実験部隊編成を命じられる。

第26話 恐怖のグン・ジェム

脚本／星山博之　作画監督／谷田部勝義　絵コンテ／谷田部勝義　演出／関田　修

ケーンたちは、重慶でプラート博士によるドラグナーの強化改良を手伝っていた。リンダ、ローズも博士の助手として働く。

シュミレーションによるテストで、ドラグーンに差を見せつけられケーンたちは歯がみするが、性能の差はいかんともしがたい。

そこへ、ドラグーンの量産を知ったアジア方面軍のグン・ジェム大佐の部隊が来襲、ドラグーン隊が迎え撃つが、セオリー無視の暴力的な闘いをするグン・ジェム隊に歯が立たない。

見かねたケーンたちは、ドラグナー3機で出撃し、グン・ジェムの部下のMAを撃破、ケーンのD－1も、ゲイザムと闘い苦戦するが、タップ・ライトの援護とパワーアップした性能により、からくもグン・ジェム隊を退けるのだった。

第27話 見参!ドラグナー遊撃隊

脚本／五武冬史　作画監督／中村旭良　絵コンテ／アミノテツロー　演出／日高政光

ギガノス軍アジア方面部隊のグン・ジェム隊は、連合軍の防衛線を次々と突破し、重慶のドラグーン量産基地にせまる勢いだった。

せまるグン・ジェム隊から、量産基地を守るため、連合軍は特殊工作隊をグン・ジェム隊のキャンプに潜入させる。しかし、ガナン大尉率るガン・ドーラ部隊の出撃のため、工作隊は全滅、残ったヤン少佐が、1台のガン・ドーラに取りつけたのみだった。

ガナンのガン・ドーラ隊を迎え撃ったケーンたちは、ヤン少佐が取りついた機体が判らず決定的な攻撃を加えられず、苦戦する。が、ヤン少佐はガン・ドーラに爆薬を仕掛けて脱出。ケーン達は反撃を開始、ガナンを敗走させる。そして、ギガノスのMA工場を叩くため、出発するのだった。

第28話 脅威の毒蛇部隊

脚本／五武冬史　作画監督／八幡　正
絵コンテ／ふくだみつお　演出／福田満夫

月面で、上層部に不満を持った若手士官が反乱を起こし要塞に立てこもった。その仲裁役として召還されたマイヨは、連合軍の活発化に対し、ギガノスは一丸となり対処するべきだとの趣旨をもって、士官たちと交渉にあたっていた。
地球では、ドラグーンの量産により、各地でギガノス軍を打ち破っていた。
ケーンたちドラグナー部隊は、ギガノスの新兵器開発工場があるという奥地へ向っていた。だが、その動きを察知したグン・ジェム隊に途中の村で待ち伏せを受け、トレーラーで先行したリンダ、ローズ、ベンは捕えられてしまう。焦ったケーンたちはグン・ジェムの部下ガナンとゴルの襲撃を受け、ドラグナーは3機とも大破する。

第29話 潜入！リンダを救え

脚本／奇数和十八　作画監督／大森英敏
絵コンテ／杉島邦久　演出／杉島邦久

ドラグナー3機を打ちまかせたグン・ジェム隊は、良からぬ目的でリンダを誘拐するが、リンダがプラート博士の娘と知るや、身代金を要求してきた。
タップとライトは、リンダを誘拐したグン・ジェム隊をバイクで追いかけたケーンが心配だったが、ダグラスの作戦もアテにはならず、ドラグナー3機も使える状態ではなかった。
一方、羊飼いに化け、敵のキャンプに潜入したケーンはリンダを救出するが、敵MA隊に包囲されてしまい、危機に陥る。
そこへ、ドラグーンを無断で持ち出したタップとライトあらわれる。
ケーンも敵MAを奪い共に闘うが苦戦、捨て身の攻撃で、自機ごと敵を破壊、脱出に成功する。

第30話 必殺！チェーンソー・アタック

脚本／松崎健一　作画監督／遠藤裕一
絵コンテ／井内秀治　演出／関田　修

アラスカ基地のパウエル少将から渡されたレビ・ゲルフ、ヤクト・ゲルフを駆ってプラクティーズの3人が、ビルマ基地へ向っていた。途中、連合軍のドラグーンに圧倒されている友軍機を援護したのはいいが、燃料を使い過ぎ、グン・ジェム隊のキャンプに立ち寄ることになる。グン・ジェムは物資の提供を快諾するが、金を取るというのだ。ダンたちは持ち合わせがないため、途方に暮れるが、グン・ジェム隊のミン大尉が、作戦に協力することを条件に燃料、爆薬をダンたちに与える。
ケーンたちのドラグナーと戦うミン大尉のスタークダインとプラクティーズのゲルフ。しかし、ミンはプラクティーズの3人を捨て駒として利用しただけだった。プラクティーズの3人は、両方に復讐を誓い、その場を脱出した。

第31話 月からの刺客

脚本／星山博之　作画監督／山田きさらか、内田順久（メカ）　絵コンテ／篠　幸裕　演出／篠　幸裕

グン・ジェム隊の基地に、生え抜きのゲルポック少佐が、特殊派遣部隊としてやってきた。無論、ドラグナー打倒のためである。
手柄を横取りされたくないグン・ジェムたちは、極めて非協力的にゲルポックたちに接するが、ゲルポックは意に介さず、ドラグナーを誘い込むため、手近な連合軍[illegible]地に襲撃をかける。
やがて、ケーンたちのドラグナーがやってくるが、ゲルポックたちの連係の前に敗退する。しかも、コーキング弾を喰らったD－2は身動きが取れず、捕えられてしまう。そして、ケーンとライトはタップを救うため、再びゲルポック隊に立ち向う。だが、身動きが取れないはずのD－2のレールキャノンが炸裂し、ケーンたちはからくもゲルポック隊を退けた。

第32話 復讐の狙撃兵

脚本／平野靖士　作画監督／服部憲知
絵コンテ／ふくだみつお　演出／福田満夫

仲間のアデン中尉をケーンたちに倒されたゲルポックとチェンドルは、仇を討つためグン・ジェム隊のジン中尉をスカウトする。
最初、ジン中尉は反発するが、グン・ジェムの思惑を聞き、承諾する。
ケーンたちは、コーキング弾の教訓から、装甲を強化して出撃する。コーキング弾の対策を施したD－1に同じ戦法は通じず、ゲルポックは付近の子供たちを盾にする。
ジン中尉は、もともとゲルポックを裏切るようグン・ジェムに言われていたが、ゲルポックのやり方を見て、すぐさまゲルポックたちを見捨てて離脱し、ケーンたちは子供らの協力で戦力を回復し、援軍を失ったゲルポックの部隊を打ち破り、子供たちも、戦いの場から離れる決意をするのだった。

第33話 ギガノスの異変

脚本／奇数和十八　作画監督／中村旭良
絵コンテ／井内秀治　演出／関田　修

ギガノスの内乱は、風雲急を告げていた。親衛隊機甲兵団の若手将校から糾弾を受けた将軍たちは、断固鎮圧をギルトールに申し出るが受け入れられず、業をにやしていた。
ギギルトールは、ギガノス独立以来の理想を実現するためには、若手の力量も、将校たちの老練さも失う訳にはいかず、苦悩する。さらに将軍の中には、マスドライバーによって地球を壊滅させることを主張するものもいたが、それはギルトールの理想に反するものだ。
しかし、急進派のズルティーン中佐が暴走し、ギルトールを暗殺、マイヨを犯人に仕立てあげるが、ギルトールの真意を知るマイヨは遺言に従いマスドライバーを破壊し、地球の壊滅を阻止するが、ギガノス軍から追われる身となってしまい、ファルゲンと共に姿を消した。

CONTENTS

一般的MAパイロット装備品の一部（大気圏内作戦用）――裏表紙イラスト

①サバイバルベスト（INパック）WITHライフブルザーバーLPA−25AP
②ヘルメット用与圧／通信コネクターチューブMA−19B
③ファーストエイドキットパック（オプション）
④ペンシルフレアーカートリッジ&ランチャーサバイバルナイフ
⑤ストロボライトSDO−9／E
⑥シュラウドカッター
⑦シグナルミラーMk−V
⑧サバイバルラジオAN／PRC−110
⑨ハンドフレアースペアカートリッジ
⑩ハンドフレアーMk−32Mod. II
⑪サイリュームセフティライト
⑫ハンドフレアー&シーダイマーカーパック
⑬ハンドフレアー&シーダイマーカーパック
⑭フラッシュライト（赤色フィルター付）
⑮レミントン社製軍用カートリッジCal. 10㎜EXPROTION CARTRIDGE TYPEⅢ
⑯ホルスター(WITHマガジンパウチ×2)
⑰コンバットオート　護身用ハンドガン Cal. 10㎝　ダブルアクション Cap：15+1発（新中央工業製10㎜口径AUTO PISTOL Mod. 2011AII）
⑱MA用システムヘルメットTYPEIIWITHゴールドバイザー（GENTEX社製近々TYPEⅢに装備変換の予定）
⑲システムグラブTYPEII（UP社製）
⑳各種薬品（WITHファーストエイドキット）

COMENT

今回、ドラグナーパイロットのヘルメットを中心に、パイロットが携帯している主な装備を描いたわけですが、こういったものが作品中に登場することはまずないでしょうね。その辺の欲求もあってか、イラストレーターの趣味が多分に出たイラストになってしまいました。

当初、渋めのイラストをということでこんなものを描きましたが、可愛いい女の子を描けなかったのが心残りですね（笑）。

最後にPRですみませんが、某誌から出た某○ラス○ィーのムックは非常に出来がいいので、一度御覧になって下さい。

PROFILE

鈴木雅久（すずき　まさひさ）
S35年生れ　新潟県出身

マンガ家のアシスタントをへて、「4×4マガジン」のカットでデビュー。イラストレーターとしてはホビージャパン掲載の「巡航追撃機ブラスティー」が最初である。

現在、獅子王で連載中の「ARIEL」、ホビージャパン連載の「巡航追撃機ブラスティー」のイラストを執筆中。

サンライズの各作品に設定協力として参加しており、「機甲戦記ドラグナー」ではコスチューム・デザイン協力という形で、スタッフの一員として参加している。

EDITORIAL STAFF

構成・編集　伸童舎

井上　徹
千葉　暁
渡辺利浩
渡部　聖

デザイン　しいばみつお
福地　仁

フォト　高瀬ゆうじ

協力　サンライズ
井上幸一

B−クラブ　スペシャル　8
METAL ARMOR DRAGONAR
モデル&設定集　定価880円
■発行日　昭和62年9月10日
■発行人　山科　誠
■編集人　加藤　智
■発行　(株)バンダイ
〒160 東京都新宿区新宿2−3−11
大橋第一ビル6F
電話03（350）8487
■印刷　凸版印刷(株)

ISBN4-89189-324-9 C0076 ¥880E

B-CLUB SPECIAL

METAL ARMOR DRAGONAR

モデル&デザイン集

- METAL ARMOR MECHANICS
- DRAGONAR OFFICIAL DOCUMENT
- DESIGN COLLECTION
- PLANNING DESIGN & COLOR CHART
- STORY & STAFF LIST
- ORIGINAL PINUP

機甲戦記ドラグナー
DRAGONAR

ARCHETYPE MAKE／HITOSHI HAYAMI, MASATO INOUE

ビークラブ スペシャル 8 METAL ARMOR DRAGONAR モデル&デザイン集 BANDAI

イラスト／鈴木雅久

DRAGONAR

定価880円

ISBN4-89189-324-9 C0076 ¥880E

郵便はがき

40円切手を
はって下さい。

160-

東京都新宿区新宿2-3-13
大橋第1ビル6F
㈱バンダイ出版課
ビークラブ編集部

ビークラブスペシャル8係

★「メタルアーマー　ドラグナー」の中で、おもしろかったもの3つに○印をつけて下さい。

(1)表紙　(2)巻頭カラーピンナップ　(3)メタル・アーマーメカニクス　(4)大張正己インタビュー　(5)ドラグナーオフィシャルドキュメント　(6)設定資料集　(7)メタル・アーマーカラーチャート　(8)初期デザイン集　(8)企画デザイン・文芸資料集　(9)各話ストーリー&スタッフリスト　(10)裏表紙

ご住所			
お名前		年令	オ
学年(職業)		電話番号	

メタルアーマー ドラグナー愛読者カード

★ビークラブスペシャル8「ドラグナー」は如何でしたか。率直な感想を書いて下さい。

(　　　　)

★次のドラグナー関連の中で、すでに購入されているものに○印を付けて下さい。

(1)ニュータイプ別冊100%コレクション　ドラグナー
(2)アニメディア別冊　機甲戦記ドラグナー
(3)どちらも購入していない。

★ビークラブスペシャルの本であなたがすでに持っている本に○印を、買ってはいないが見た事のある本に×印を付けて下さい。

(1)怪獣玩具　(2)高田明美画集　(3)オネアシスの翼　(4)スケバン刑事写真集――愛のセーラ服戦士達　(5)スケバン刑事研究　(6)スケバン刑事II完全シナリオ集　(6)オーラバトラーズ

★この本のことを、何でお知りになりましたか。

1. 雑誌名(　　　　)　2. 新聞名(　　　　)
3. 書店で見て　4. 友人に教えられて
5. その他(　　　　)

ビークラブスペシャル
買い上げ誠にありがとうございます。今後とも、B-CLUBをよろしくお願い致します。